

第 11 回日ソ知事会議  
議 事 録

〔付〕 ソ連知事団滞在日程等

平成 2 年（1990 年）8 月

全 国 知 事 会

写真あり

第 11 回日ソ知事会議（8 月 23 日 都道府県会館にて）

写真あり

櫻内義雄衆議院議長との会見（八月二十二日 議長公邸にて）

写真あり

土屋義彦参議院議長との会見（八月二十二日 議長公邸にて）

写真あり

中山太郎外務大臣主催レセプション（八月二十九日 飯倉公館にて）

写真あり

奥田敬和自治大臣主催昼食会（八月三十日 ホテルニューオータニにて）

写真あり

日産自動車（株）座間工場（神奈川県）参観（八月二十四日）

写真あり

平安神宮（京都）参観（八月二十五日）

写真あり

経済懇談会（八月二十七日 大阪、ロイヤルホテルにて）

写真あり

富山新港参観（八月二十九日）

写真あり

東京都中央卸売市場築地市場参観（八月三十日）

## 目 次

(写 真)

第 1	第 11 回日ソ知事会議次第	1
第 2	会議出席者名簿	5
第 3	会議概要	5
1	開 会	5
2	開会挨拶・鈴木全国知事会会長	6
3	団長挨拶・チェレパノフ・モスクワ州ソビエト議長	6
4	議長選出	6
5	シラーエフ・ロシア共和国首相メッセージ伝達	7
6	来賓挨拶	7
	(1) 奥田自治大臣	8
	(2) 中山外務大臣(代読)	10
	(3) クズネツォフ・在日ソ連臨時代理大使	12
7	議 事	12
	第 1 議題「日ソ友好親善の発展について」	
(1)	主報告	12
	① チェレパノフ・モスクワ州ソビエト議長	12
	② 金子新潟県知事	17
(2)	意見発表	23
	① ヤーロフ・レニングラード州ソビエト議長	23
	② 中西石川県知事	28
	③ ティシュケビッチ・ミンスク州執行委議長	31
	④ 横路北海道知事	34
(3)	関連発言	37
	① マハラゼ・ボルゴグラード州ソビエト議長	37

②	ボコフ・ノボシビルスク州執行委議長	39
③	平井山口県知事	42
④	高田長崎県知事	43
⑤	栗田福井県知事	45

< 昼食・休憩 >

第2議題「日ソ貿易・経済の協力について」

(1)	主報告	48
①	ベロツェルコフスキー・ロシア共和国貿易公団総裁	48
②	岸大阪府知事	54
(2)	意見発表	59
①	ブルダーエフ・ブリヤート自治共和国最高会議議長	59
②	荒巻京都府知事	62
③	ノジコフ・イルクーツク州執行委議長	66
④	平松大分県知事	69

< コーヒーブレイク >

(3)	関連発言	74
①	クズネツォフ・沿海地方執行委議長	74
②	シャムシン・ヤクート自治共和国首相	77
③	ラケツキー・チュメニ州執行委議長	79
④	佐藤福島県知事	80
8	共同声明協議	81
9	閉会挨拶	88
	チェレパノフ・ソ連知事団団長	88
	鈴木全国知事会会長	89
10	閉    会	90
11	共同声明調印	90
[付]	記者会見の概要	91

[付 録]

1	来日ソ連知事団名簿	97
2	ソ連行政区画図	101
3	ソ連知事団滞在日程	103

(付 地方視察同行者)



## 第 1 第 11 回日ソ知事会議次第

平成 2 年 8 月 23 日（木） 10 時

都道府県会館 別館 211 号室

- 1 開 会
- 2 開会挨拶、出席知事紹介 全国知事会会長・東京都知事  
鈴 木 俊 一
- 3 団長挨拶、団員紹介 ソ連知事団団長・モスクワ州ソビエト議長  
I. M. チェレパノフ
- 4 議長選出
- 5 I. S. シラーエフ・ロシア共和国首相メッセージ伝達  
B. L. コロコロフ同国外務次官代読
- 6 来賓挨拶  
自 治 大 臣 奥 田 敬 和  
外 務 大 臣 中 山 太 郎（代読）  
在日ソ連臨時代理大使 V. D. クズネツォフ
- 7 議 事  
第 1 議題「日ソ友好親善の発展について」
  - (1) 主報告
    - ① モスクワ州ソビエト議長 I. M. チェレパノフ
    - ② 新 潟 県 知 事 金 子 清
  - (2) 意見発表
    - ① レニングラード州ソビエト議長 Y. F. ヤーロフ
    - ② 石 川 県 知 事 中西陽一
    - ③ ミンスク州執行委員会議長 A. I. ティシュケビッチ
    - ④ 北 海 道 知 事 横路孝弘
  - (3) 関連発言

- ① ボルゴグラード州ソビエト議長 V. A. マハラゼ
- ② ノボシビルスク州執行委員会議長 V. A. ボコフ
- ③ 山 口 県 知 事 平 井 龍
- ④ 長 崎 県 知 事 高 田 勇
- ⑤ 福 井 県 知 事 栗 田 幸 雄

<昼食・休憩> (別館 2 階 レストラン富士)

(12 : 30～13 : 30)

## 第 2 議題「日ソ貿易・経済の協力について」

### (1) 主報告

- ① ロシア共和国対外貿易公団総裁 I. V. ベロツェルコフスキー
- ② 大 阪 府 知 事 岸 昌

### (2) 意見発表

- ① ブリヤート自治共和国最高会議議長 S. N.ブルダーエフ
- ② 京 都 府 知 事 荒 卷 禎 一
- ③ イルクーツク州執行委員会議長 Y. A. ノジコフ
- ④ 大 分 県 知 事 平 松 守 彦

<コーヒーブレイク> (14 : 50～15 : 10)

### (3) 関連発言

- ① 沿海地方執行委員会議長 V. S.クズネツォフ
- ② ヤクート自治共和国閣僚会議議長 V. P.シャムシン
- ③ チュメニ州執行委員会議長 L. Y.ラケツキー
- ④ 福 島 県 知 事 佐 藤 栄佐久

## 8 共同声明協議

## 9 閉会挨拶

- ① ソ連知事団団長 I. M. チェレパノフ
- ② 全国知事会会長 鈴木 俊 一

## 10 閉 会 (16 : 04 終了)

## 11 共同声明調印

## 第 2 日ノ知事会議出席者名簿

### 日本側出席者

東京都知事	鈴木俊一	(全国知事会会長)
石川県知事	中西陽一	(全国知事会副会長)
山形県知事	板垣清一郎	(全国知事会副会長)
山口県知事	平井龍	(全国知事会副会長)
北海道知事	横路孝弘	
秋田県知事	佐々木喜久治	
福島県知事	佐藤栄佐久	
新潟県知事	金子清	
福井県知事	栗田幸雄	
京都府知事	荒巻禎一	
大阪府知事	岸昌	
長崎県知事	高田勇	
大分県知事	平松守彦	
青森県副知事	谷川憲三	
神奈川県副知事	久保孝雄	
富山県副知事	宗田勝博	
奈良県副知事	柿本善也	
鳥取県副知事	古居儔治	
岡山県副知事	吉原孝司	
福岡県副知事	林照雄	
全国知事会事務総長	砂子田隆	

ソ連側出席者

モスクワ州ソビエト議長（団長）	I. M. チェレパノフ
ロシア共和国外務次官	B. L. コロコロフ
ブリヤート自治共和国最高会議議長	S. N. ブルダーエフ
ヤクート自治共和国閣僚会議議長	V. P. シャムシン
ノボシビルスク州執行委員会議長	V. A. ボコフ
沿海地方執行委員会議長	V. S. クズネツォフ
ボルゴグラード州ソビエト議長	V. A. マハラゼ
イルクーツク州執行委員会議長	Y. A. ノジコフ
チュメニ州執行委員会議長	L. Y. ラケツキー
ミンスク州執行委員会議長	A. I. ティシュケビッチ
レニングラード州ソビエト議長	Y. F. ヤーロフ
ロシア共和国外務省上級参事官	M. V. イワノフ
ロシア共和国対外貿易公団総ニ	I. V. ベロツェルコフスキー
ロシア共和国外務省儀典長	A. A. マカロフ
通 訳	O. Y. ジリーナ（女性）

来 賓

自 治 大 臣	奥田敬和
外 務 省 欧 亜 局 長	兵藤長雄
在日ソ連臨時代理大使	V. D. クズネツォフ

オブザーバー

在日ソ連大使館一等書記官	L. L. シェフチュク
在日ソ連通商代表部副首席	A. N. エフドキモフ
	その他通商代表部員
イルクーツク州執行委員会議長補佐	O. P. タラソフ
各都道府県東京事務所長ほか幹部職員、全国知事会事務局各部室長、 内外報道機関各社	
（会議通訳） 小 林 満利子、三 浦 みどり	
（写真撮影） 久 保 靖 夫	

### 第 3 会 議 概 要

#### 1 開 会

砂子田全国知事会事務総長は、第 11 回日ソ知事会議の開会を宣するとともに、両国知事代表（鈴木全国知事会会長及びチェレパノフ団長）に対しそれぞれ挨拶と出席者の紹介方をお願いした。

#### 2 開会挨拶

##### **全国知事会会長・東京都知事**

##### **鈴 木 俊 一**

ソ連知事団の皆様、ようこそお出で下さいました。

私は、全国知事会会長を致しております東京都知事の鈴木でございます。

振り返ってみますと、日ソ両国知事の定期的な交流は、1968年に始まり、爾来10回を数える相互訪問と会議を重ねて参りました。

1988年にモスクワで開かれました第10回目の会議には、私も団長として参加いたしました。その節は、ここにお出でのチェレパノフ・モスクワ州知事さんを始め、今回の団の半数以上の方々とご一緒でありました。会議は10年ほどの空白の後開かれましたが、活発な意見交換が行われ、相互理解と親善増進の上で大きな収穫があったと信じております。

本日私どもが1979年以来、久し振りにお迎え致しております皆様方は、偉大なペレストロイカによる政治制度改革の下、初めての地方選挙で選ばれた、意気軒昂たる方々であります。地方の権限が拡大したとお聞きしております改革の内容と皆様方のご抱負も伺えますれば、幸いに存じます。

今日の会議の議題は「日ソ友好親善の発展」と「日ソ貿易・経済の協力」であります。活発な意見交換の行われますことを期待いたしまして、私の開会のご挨拶といたします。

それではここで、日本側の出席知事をご紹介申し上げます。

（日本側出席知事・副知事を紹介） 以上でございます。

### 3 ソ連知事団団長挨拶

#### モスクワ州ソビエト議長

##### I. M. チェレパノフ

尊敬するご列席の皆様、親愛なるソ連の同僚の皆さん。

まず私が最初に申し上げたいことは、私どもソ連代表団は、第 11 回日ソ知事会議に参加して、同会議が十分な成功をおさめることを強く期待しつつ訪日したことであります。

2 年前モスクワで開かれた第 10 回日ソ知事会議での経験と成果は、私どもに一つの確信を与えました。それは、我々はお互いに協力関係と善隣関係を発展させることができるし、またそうしなければならない、という確信であります。

第 10 回日ソ知事会議から 2 年経過しまして、私どもの意図をさらに進展させる新たな機会を得たことを喜んでおります。私どもは今回の知事会議で報告を行い、またいくつかの提言を申し述べたいと思っております。

それでは、まず、ソ連知事団の団員をご紹介させて頂きたいと思えます。

(自分を含め、ソ連側代表団員を紹介。(拍手))

私どもは、第 11 回日ソ知事会議が実際の成果を残すよう、できるだけ準備をして参りました。どうかよろしく願いいたします。

### 4 議長選出

砂子田事務総長から、本日の会議の議長の選定については、両団長間の話合いの結果、日本側の鈴木全国知事会会長に議長をお願いすることといたしたので了承いただきたい旨発言、異議なく了承されたため、鈴木会長が議長をつとめることに決した。

### 5 メッセージ伝達

#### ロシア共和国閣僚会議議長

##### I. S. シラーエフ

ロシア共和国閣僚会議

(ロシア共和国外務次官 B. L.コロコロフ氏代読)

### 第 11 回日ソ知事会議参加者のみなさまへ

ロシア共和国閣僚会議は、第 11 回日ソ知事会議参加者のみなさまにご挨拶をお送りします。

ロシア共和国政府は、東京に参集されたソ連と日本の地方行政を代表するみなさまが、両国民の相互理解を深めるために最大の努力をし、互恵の貿易・経済関係を含むありとあらゆる分野における協力拡大の道を見いだされるものと期待しております。そのためのよい条件をつくりだしているのが、各連邦共和国、とくに日本と国境を接するロシア共和国の主権と自主性が強化されたことでありましょう。

会議の参加者各位が、極東とアジア太平洋地域全体の安全の強化ならびに実務分野での協力発展のために努力を結集することに無関心ではないものと期待いたします。そのためには、良好な国際的な雰囲気、そして現代の国際活動の決定的な要因となっている新しい政治思考が広範囲な可能性をつくっています。

ロシア共和国閣僚会議は、東京で開催される第 11 回ソ日知事会議に参加されるみなさまに、会議の成功をお祈りするとともに、この会議がソ連と日本の善隣関係発展に貢献するものと確信しております。

1990 年 8 月 20 日

ロシア共和国閣僚会議議長

I. S. シラーエフ

## 6 来賓挨拶

### (1) 奥田自治大臣挨拶

本日ここに、訪日ソ連知事団団長 I. M.チェレパノフ氏をはじめとする訪日ソ連知事並びに随員の皆様をお迎えいたしまして、第 11 回日ソ知

事会議が開催されるに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

訪日ソ連知事の皆様方、遠路ようこそお出でいただきました。心からご歓迎を申し上げます。

この日ソ知事会議も、1968年東京において初めて開催されてから今回で11回目ということですが、その間8年にわたる中断があり、実に11年ぶりに東京でこの会議が開催されると聞いております。私ども地方行政に携わるものとして誠に喜びにたえない次第でございます。

さて、今回の議題は、「日ソ友好親善の発展について」及び「日ソ貿易・経済の協力について」と伺っております。日ソ両国が、国レベルのみならず地域レベルでも、従来以上の友好関係構築に向けて前進することは、両国民の共通の願いでもあります。また、経済面における相互協力の一層の推進も、世界経済の発展を考える上で極めて重要な課題であります。近年の日ソ両国の地域間交流の増大や、両国間の貿易・経済交流の着実な進展に鑑みましても、誠に時宜を得た議題であると存じます。

日ソ両国の知事各位がこのように一堂に会されまして、これらの問題に関し英知を集めて意見の交換、討論をなされますことは、大きな意義があるものと大変期待をいたします。

訪日ソ連知事並びに随員の皆様には、この会議終了後、神奈川、京都、大阪、富山の4府県を視察されるご予定と承っております。

日本の現状を十分に視察されて、我が国の地方行政に対する理解を一層深められるとともに、日本の旅を存分にお楽しみ下さることを願ってやみません。

本日のこの会議が所期の成果をあげ、実り多きものになりますよう、心から念願いたします。

バリショイ・スパシーバ。

## (2) 中山外務大臣挨拶

(外務省欧亜局長 兵藤長雄氏代読)

中山外務大臣が現在中東を訪問中でございますので、代わりましてご挨拶



挨拶を代読させていただきます。

本日、第11回日ソ知事会議が開催されるに当たり一言御挨拶を申し上げます。まず皆様のご来日を心から歓迎いたします。

日ソ知事会議は、1968年に第1回会議が東京で開催されて以来、今回で11回を数え、本年は11年振りの東京開催と承知いたしております。日ソ知事会議は20年余りの年月を経て、日ソ両国民間の相互理解と友好親善促進の良き伝統となっております。この機会に、日ソ双方の関係者各位の御努力に対し衷心より敬意を表しますと共に、今後の一層の御発展をお祈り申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、現在世界は大きな変革期を迎えており、マルタ米ソ首脳会談以降の米ソ関係の進展、東西ドイツ統一等欧州新秩序構築に向けた動き、更に先般の韓ソ首脳会談等に象徴されるごとく、戦後40年以上に亘り世界を特徴づけてきた対立の構造は対話と協調の構造へと変化しつつあり、21世紀に向けて新しい国際秩序が模索されつつあります。ソ連においても、ペレストロイカの下で、従来のソ連社会とは異なり、民主化、自由化の方向に既に動き出してきており、また、市場経済導入の途が模索されております。このような国際情勢の進展、ソ連の国内情勢の変化の中で、日ソ関係においても抜本的改善・正常化の可能性が一層現実的なものになりつつあると認識いたしております。

現在、日ソ間においては、このような両国関係の抜本的改善、正常化を実現し、21世紀に向けた新しい日ソ関係を構築するために活発な政治対話が続けられております。無論その実現のための最重要課題は、北方領土問題を解決しての平和条約の締結を実現することにあります。同時に実務関係、人的交流の面でも関係を促進し、日ソ関係全体を均衡のとれた形で拡大させることが重要であります。このような観点から、地方自治体間の交流を促進する日ソ知事会議の役割も今後益々重要になってくるものと思っております。

明年にはゴルバチョフ大統領の訪日が予定されております。9月のシェヴァルナツェ外務大臣訪日等を通じ両国間で真剣に準備し、同訪日を日ソ

関係史上画期的な意義を有するものとしたいとの考えであります。

最後に臨みまして、第 11 回日ソ知事会議の成功と御列席の皆様への御健勝、御多幸をお祈りして私の挨拶とさせていただきます。

日本国外務大臣 中山 太郎

### ③ 在日ソ連臨時代理大使

#### V. D. クズネツォフ

#### 第 11 回日ソ知事会議へのご挨拶

尊敬する全国知事会会長

尊敬するご列席の皆様、

尊敬する同志の皆様。

第 11 回ソ日知事会議（ソビエト連邦の地方、州および自治共和国の指導者と日本の都道府県知事との会議）は、ソ日関係にとって極めて重要な時期に開催されました。世界舞台における変化の影響を受けて、諸国人民は、より広範な協力や相互理解と信頼を達成する熱意を増しています。同様なプロセスはソ日両国を始め、アジア太平洋地域でも次第に活発化しつつありますが、これは、国際協力の方向や形態を決める使命にある各種レベルの指導者、機関や団体に対し、新しい大規模な課題を提起しています。

近年、ソ連と日本との間に、政治対話の拡大深化、国際政治や二国間関係の各種諸問題に関する立場の接点の探求、そして時代の精神にふさわしい、交流増進の新しい形態と方策の追及が徐々に進行しつつありました。お互いの努力は、政治、経済、文化などの分野で一定の実を結び、ソ日関係の全般的雰囲気改善を促しました。

現在、両国には、ソ日対話を最も高いレベルに持ち上げるという課題があります。ゴルバチョフ大統領の訪日が両国対話の議題に上っております。我々は、ソ日首脳会談が両国関係の質的好転を導き、同関係をよりダイナミックなものにし、両国の潜在力と世界での役割にふさわしい規模や活気を同関係に与えなければならないと確信しております。

いうまでもなく、私たちは、首脳会談が双方の努力によって入念に準備され、大統領訪日がソ日関係における意義にふさわしい、大きな結果で満たされなければならないと考えております。来る9月初めのシェワルナゼ外相の訪日とソ日外相定期協議は、大統領訪日準備の重要な段階になるでしょう。

地域レベルの交流およびソ連と日本の地方指導者との接触がソ日関係増進に大きな役割を果たして参りました。ソ連でペレストロイカが進み、地方行政の自主性と権限が著しく強化された今、地域間交流の意義がはかりしれないほど増大したと思います。それは、ソ連の地方、州、自治共和国が、地域内の問題だけでなく、外国との互惠交流においても大きな権限と可能性を持つようになったからであります。このことは、ソ日両国間の地域レベルの関係においてもかつてなく広い展望を開くものでしょう。

この意味において、今回のソ日知事会議は特別の意義を持つといえるのではないかと思います。知事会議にご参加の皆様が、会議期間は短いにもかかわらず、建設的で、内容の深い対話を行い、ごく近い将来においてソ連と日本の各地域間、また両国全体との関係を新しいレベルに持っていく方策や形態を見出だすことを期待できる十分な根拠があると思います。このことは、両国人民だけでなく、アジア太平洋地域諸国、そして世界全体の利益に合致するものであるに違いありません。両国代表団の高いレベル、ご出席の皆様が代表しておられる地域の地理的広がりやそれらの地域が持つ大きな潜在力、お互いの交流の活発化の客観的必要性とそれに対する両国人民の関心は、この会議がきっと実りの多いものになるという確信を私たちに与えます。

尊敬するソ連と日本の知事の皆様。

どうか興味深いかつ創造的な討議、完全なる相互理解そして会議の大成功を心からお祈り申し上げまして私のご挨拶と致します。

ご清聴どうもありがとうございました。

## 7 議 事

### 第 1 議題 「日ソ友好親善の発展について」

#### (1) 主報告

##### ① モスクワ州ソビエト議長

###### I. M. チェレパノフ

尊敬する鈴木知事！

尊敬する日本の知事のみなさま！

親愛なソ連の同志諸君！

全国知事会がこの第 11 回会議を、前回のモスクワ会議の取り決めにしたがって開催して下さったことに深く感謝します。日本の県の指導者の方々と、ソ連の自治共和国、州、地方との関係は長期にわたって中断していましたが、その中断を再び繰り返さなかったということは、非常に重要であります。このことは現在の世界をあらわしています。また、一貫して友好関係を支持してきたみなさまとわれわれを表わしてもいます。このような志向は、世界で起こりつつある肯定的なプロセスと国際関係の安定化とを土壌として生まれ、発展し、平和を恒久的なものにしております。

第 10 回会議の後の 2 年間、世界には大きな変化が生じました。総体的にそれらは、もちろん、肯定的な変化であります。世界的に対決から協力への移行がみられます。アメリカ合衆国とソ連邦が、核戦争の手段を廃棄するという現実的な合意の始まりは、世紀の出来事として人類の歴史に書き記されました。二大強国のこの先例のない行動を発展させていくための話し合いは継続中です。それは諸国民に、理性の勝利、分別、そして政治家が人類の運命に対してもつ大きな責任に対する期待を抱かせてくれます。

紀元 2000 年までの核兵器完全廃棄に関するソ連の提案は、世界の世論の視野に存在し続けています。これは現代の最も緊急な問題の解決なのです。歴史は、政府にだけでなく、全世界の世論に大きな役割を課したのだと思われまます。もちろんわれわれにもです。もちろん、困難

ではありますが、新しい政治思考の支配力は強まりつつあります。新しい政治思考は、世界が敵対する陣営に分裂するのを阻止することが出来ますし、人類の文明の規範として、諸国民と国家間の相互の尊敬と協力を認めることが出来ます。

もちろん、イラクのクウェート侵攻という危機的な情勢は、ペルシャ湾に起こっておりますが、肯定的な方向に向かっていく歴史的出来事の路線からはずれていません。この緊急な紛争も、平和的に政治的に調整されるものと希望をかけたものです。世界共同体は、中東のドラマチックな情勢を、まさにこのような方向で解決しなければなりません。

最近、深刻な政治的動きが東ヨーロッパに起こりました。それらの動きは、なんらかの形でわが国のペレストロイカのプロセスに結びついているのです。これに関連して、われわれの立場をはっきりとさせたく思います。ヨーロッパ大陸に力と利害の新しいバランスが生じたことにより、地域レベルでの関係や、さまざまな国の地方行政とのコンタクトの拡大に対するわれわれの関心は、縮小されるどころか、増大しつつあります。そこにはビジネスマン同士の関係に信頼の気運をつくりだし、人文的な関係をあらゆる面で発展させるための大きな可能性の場がひらかれています。

現在、都市と地域の姉妹関係運動が世界的に盛んになりつつあります。これは、民間外交の効果的な形態と言えましょう。世界の人々を友情の絆で結ぶからです。ここ数年、ソ連の諸都市および地域と姉妹関係にあるアメリカ合衆国、イギリス、イタリア、フィンランド、フランス、スウェーデン、西独の都市と地域の代表者の会議が成功裡に催されました。

日本の都市または県との間に姉妹関係を結ぶことが、ソ連の人々に特別の関心をよんでいることは、十分理解できます。問題は、善隣関係だからです。現在の世界では、これは実に多くを意味しています。この点で、みなさまと力を合わせるにより、ソ連と日本のさまざまな地域

の間で、パートナー関係を結ぶ運動を成長させることができた、と申し上げることに、大きな満足をおぼえます。国家間の関係全体が好転したことも、好都合でした。政府間レベルでのコンタクトも顕著に活発化しています。ソ連の外相の訪日、ソ連邦最高会議代表団の訪日は、信頼強化の状況で実現し、国家間レベルでの相互関係を著しく豊かにしました。この肯定的な傾向が、予定されるシェワルナゼ外相とゴルバチョフ大統領の訪日に、新しい強力なインパクトをあたえてくれるものと確信しております。

80年代の終わりには、日本とソ連の対外経済関係が活発化しました。これは善隣関係の基礎を強化してくれます。1988年の第10回会議後2年間の間に取引高は1.3倍になり、ソ連から日本への輸出は38%増大し、日本からの輸入は30%以上増えました。

ここで、モスクワの会議での長洲神奈川県知事が申された、「人々と商品の流れがお互いに向かって動きだせば、ミサイルも飛びにくくなる」という言葉を思い起こしてみましょう。大変含蓄の多い、すばらしい言葉です。この長洲知事の言葉を借りれば、間もなくミサイルは、まったく飛ぶことができなくなるはずです。

エコロジー問題解決のためには、努力を倍増させなければなりません。動物界、植物界、世界の水域と大気団は、国際的な保護を必要としています。エコロジー的に否定的な多くの現象は、国の国境とは無関係で、一つの大陸で発生すると、グローバルな性格を帯びるのです。その破壊的な作用を阻止することは、あらゆる民族、あらゆる国民の利益に適っています。

ロシア共和国と日本との関係について特にお話したいと思います。ロシア共和国閣僚会議シラーエフ議長は、あいさつ文の中で、互恵の貿易経済をふくむあらゆる分野で、われわれの協力を拡大することが出来ることと確信している旨申しておられました。この希望は現実的なものです。この希望は、相互の関係を積み重ねた経験と共同の試みに立脚している

のです。現在ではロシアの 18 の都市と地方が、それぞれ日本の県と市とのあいだに友好関係をもっています。日本の県知事のみなさまは、ロシア共和国政府の招きによってわが国をおとずれておられます。今年の平松知事、横路知事の訪ソの結果、ロシア共和国と大分県、北海道とのパートナーシップの協定が結ばれました。多面的で活発なコンタクトが以下の都市・県との間にむすばれました。つまり、レニングラードと大阪、ハバロフスクと新潟、ボルゴグラードと広島、イルクーツクと金沢、ノボシビルスクと札幌、ナホトカと日本の三つの都市です。東シベリア・極東と日本の日本海沿岸都市の市長の会議はすでに 12 回も開催されました。先頃の 12 回会議では、2 年間の協力プログラムが採択され、実施中です。『極東の友好、善隣、協力』のスローガンのもとに、ソ連極東部と北海道の市民の会議は、非常に有益でありました。

われわれは、今後あらゆる面で協力する用意があります。地方自治体が、業務関係、対外貿易関係を発展させる可能性は増大しつつあります。ロシアは、ソ連邦構成員として真の主権を得て、地域の活動の自由と自治を全面的に促進させていくつもりです。ロシア共和国で作成中の法律は、経済・金融に関する地方議会の権利をかなり拡大させることを見込んでいます。これを考慮して、対外経済関係を展望しております。

われわれの側からは、開始された軍需産業の民生への転換が、あらゆるレベルでの協力に新しい見通しをひらいております。軍需産業には、物質的な大きな潜在力だけでなく、大きな知的な潜在力が集中していることは秘密ではありません。そのかなりの部分が自由化されて、国内の社会的なプログラムに向けられます。しかし、国内経済のこの面は、対外的な関係にも敏感です。われわれは現代的な技術と先進的な学術開発をもっているということになり、それによって世界のパートナーの関心を誘うことができます。もちろん、それは相互の精神に基づいてのものであります。

われわれが関心をもつ分野を強調してまいりましたが、その中心にあ

るのは、市場経済への移行に関連した問題です。ソ連の専門家と政治家は、市場のメカニズムを利用しなければ経済危機からの脱出は不可能だという点で、ますます意見の一致をみています。われわれは、さまざまな形態の所有と経営を含んだ、いくつかの機構をもつ経済のモデルをつくるというきわめて困難な課題を抱えております。消費者市場の正常化、予算の改善、インフレの安定化、過剰な金をまとめるための効果的な対策が必要なのです。現在は、間近に迫った抜本的な経済再編成のための法律の基盤を準備中です。モスクワでの第10回会議の討論で、西村副知事が、いみじくも、合併企業法、土地法、所有法が未整備だと指摘されたのを覚えております。現在、整備の過程は加速中であります。われわれにとって特に重要なのは、市場経済の機能のさせ方における世界の豊かな経験を参考にすることです。この点では、日本の経済が素晴らしい手本となっています。

地方行政同士のパートナーシップは、平和に仲良く暮らしたいと願う国民の意志を反映させなければなりません。しかし、社会秩序だけが全人類的な価値をもつものではありません。古代から人々は、文化関係、通商関係、医学、科学、教育、社会公共事業に関する知識の交換に高い評価をあたえてきました。多くの世代を経たこの素晴らしい伝統を、姉妹都市運動は受け継ぎ発展させています。ここに姉妹都市運動の貴さがあり、人々をひきつける力があるのです。例えば、わたくしなどは、日本の人々がロシアの歌を聴くだけでなく、立派に歌うことに驚嘆しております。われわれには、芸術にみられる日本的な主題はとても快いものです。これは文化交流の偉大な魅力ではないでしょうか？ 職業面での関係、青年の会議などは、どれほど多くの有益なものをもたらすことでしょうか。

ソビエトの人々の意志は、社会生活の建て直し、真の民主主義の勝利にしっかりと結び付いています。民主主義の原則は、地方行政の努力によって、かなり現実化されております。こういうわけで、州議会を代表



するわれわれは、あらゆるレベルの地方自治におけるみなさまの永年の経験に特に関心を持っております。わが国の全ての地域が、1991年から自治と自己資金調達原則に移行するので、われわれの希求も高まっているのです。今回、日本のいくつかの県に滞在する間に、自分たちの関心が満たされるものと期待しております。みなさまの地方経済運営を実地にみせていただける素晴らしい機会を得て、十分にこのチャンスを生かすべく努力いたします。

今日は、日本のみなさまと、多くの問題について実務的、建設的な話し合いをいたす所存です。われわれの誠意と善意を信じて下さるよう、お願いいたします。

われわれ全員は、国と国、国民と国民の間に、文明に値する関係をつくり発展させる手助けをするという、立派なそして必要なことをしていると確信しております。相互理解と友情は、その上に強固で正しい平和という建物を建設することの出来る基礎なのです。

ご清聴ありがとうございました。

## ② 新潟県知事 金子 清

### 日ソ友好親善の発展について

ご指名をいただきました新潟県知事の金子清でございます。

本日、ソ連側の知事の皆様にお会いできましたことは、私にとって大きな喜びであります。また、このように「日ソ友好親善の発展について」という第1議題についての基調報告をする機会を得ましたことを大変光栄に存じております。

また、今回は、1979年以来11年ぶりの東京開催と承知いたしておりますが、訪日されましたソ連邦知事の皆様方を心より歓迎申し上げます。

さて、今日、国際社会は急激な速さで大きな変化をみせてきております。貴国において進められている調整市場経済への移行の取り組みや、多元

的な政治民主化の確立を目ざしたペレストロイカは、東ドイツ、ハンガリーやポーランドをはじめとする東欧諸国の変革をも方向づけ、第2次世界大戦後の国際政治の根幹にかかわるといわれる政治、経済システムの変革をもたらすとともに、東西関係の枠組みに変化を与え、国際緊張の緩和に大きな影響をもたらしました。このことは、戦後の冷戦構造を終結させ、新しい国際秩序と新しい東西経済を構築することとなったと言えることができると思います。

これらの変化する世界情勢の中で、我が国においては、高い水準を確保することのできた経済力や技術力により、また、政治、文化、教育などの総合的な活力をもとに、国際社会にあって、新しい役割りを果たすため、努力を重ねているところであります。

貴国においても、ペレストロイカ、グラスノスチなどの新しい政治思考による方策や提案が打ち出され、ゴルバチョフ大統領のもと、力強い政策が展開されており、世界のリーダーとして前進されておられるところであります。

このときにあたり、お互いに隣国にあるものとして、協力的かつ発展的に課題を解決し、お互いに心を開き関係改善に努力することはもちろん、さらにアジア・太平洋地域における平和と繁栄を確保するために協力と協調を図ることも、今両国にとって誠に意義深く、重要であると考えます。

戦後の日ソの関係は、1956年5月の日ソ漁業条約の締結、海難救助協定の調印、さらに10月の日ソ国交回復宣言において、外交関係を回復した以降、経済協力や科学技術協力に関する委員会の継続的な開催、また、産業総合展示会や見本市の開催、さらには極東をはじめとする各種の地域、資源開発のプロジェクトについて共同で取り組んできているところであります。

これらは、米ソの緊張緩和が進んだことを背景に戦後の未解決の諸問題を解決し、平和条約を締結しようとの1973年の田中・ブレジネフ

共同声明を節目として一層進んできたといえると思います。

今までは歴史的、政治的な背景のもと、お互いの努力により、日ソ両国の関係改善を図ってきたところではありますが、残念ながら、その成果は未だ大きいとは言えない状況にあります。

日ソ両国の友好関係の安定的な発展にとって、また相互信頼に基づく真の友好関係を確立するためには、避けて通ることのできない解決を要すべき課題があることも事実であります。

それは、北方領土の問題であります。

残念なことに、この問題をめぐる日ソ両国政府の見解は大きく異っております。領土返還の要求は、国会、地方議会での決議などにみられるところであり、日本国民全ての願いでもあります。9月に予定されているシェワルナゼ外相、そしてゴルバチョフ大統領の訪日を、日ソ関係の抜本的改善の格好のステージとして欲しいと願うものであります。

貴国は、ヨーロッパにおいて非常に難しい政治課題を一つ一つ解決しております。極東においても、たゆみない話し合いと理解の積み重ねによって、戦後、我が国が貴国との間に残してきた大きな課題を解決し、日ソ平和条約の締結につながることを期待するものであります。

今日の緊張緩和という世界情勢の中でこのような懸案を解決しつつ、同時にその他の面でも関係発展に努力することにより、日ソ関係を拡大均衡させたく、そのような過程を通じ日ソ両国の抜本的関係改善が進むことを大いに期待するものであります。そのような拡大均衡の中で、各種レベルにおける人、もの、情報のより一層の自由な交流は、経済や文化などの各分野の多方面にわたっての発展のために、大きく貢献することができるものと考えております。

私は、友好親善の基礎は国家間の安定的な、信頼と依存関係にあることはもちろんであります。実効のある、また成果をあげ得る継続的な友好交流は、我々自治体レベル、地域レベル、また市民レベルの交流においてなし得ると考えているものであり、これらの友好交流を育んでい

くことが大切であると考えてもおります。

お互いの国民が言語ではなく身体で語り、心を開いて理解し合える交流。

スポーツ・文化を通じて、共に汗し、共に感動し、出会えた者のみを得ることのできる壮快感、充実感。

旅にある者が異国で得る触れ合いの喜び。

このような小さな出会いが、想いとなり、友好交流の心として大きく育ったら、また伸ばせたらいいという風に考えております。

このことから私は、友好親善・交流に定式はない、できることから始め、国、地方、各界各層を問わず、また団体、個人を問わず、心のこもった実践が優先するものと考えております。

人と語り、文化を語り、国を語る…どんなことからでも、友好親善は始まると考えております。

私は今こそ、「隔てる海・緊張の海」といわれてきた日本海を「平和の海・自由と交流の海」日本海として、この自由の海を越えて、貴国との新たな、力強い、そして飛躍的な友好関係を築きあげる行動のできる時であることを強調したいと思っております。

二十一世紀は、日本海時代とも言われております。東京から新幹線で2時間足らずの我が国における日本海側のゲートウェイ・新潟県はまさに、「自由と交流・平和の海」に架け橋をもつ拠点であります。

新潟県と貴国、特に極東地域との交流の現状を概略申し述べ、両国間の今後の交流促進の参考にしていただければ、幸いです。

1964年、新潟大地震の直後における貴国ハバロフスク、ウラジオストック市民から、救援木材3,000立方メートルを贈られたことの好意を、私どもは忘れることはできません。これを契機に、ハバロフスク市と新潟市とは友好姉妹都市提携をなし、以来、経済、文化等の分野において、語学研修生の交換やバレエ公演など多様な交流活動が行われてきております。

1973年、地方空港の先鞭をきって、新潟空港にハバロフスクとの国際航空路が開設され、日本海に架かる「日ソ友好の架け橋」と呼ばれ、多くの利用がなされてきたところでもあります。現在は旅客便は週3便、貨物便は週2便に増便がなされてきております。1989年度の状況を見ますと、旅客人員は、24,567名と前年度の14,659名に比し、67パーセントを超える大幅な伸びをみせており、又、空輸貨物につきましても、4,705トンと近年、大きな増加をみせてきております。このようにソ連極東地域との人と物の交流は高まってきております。なお、この航空路は1989年9月には、中国ハルビンをも結び、北東アジア、ソ連極東、日本を結ぶ「空の三角航空路」として、その翼を大きく広げております。

また、貴国においてナホトカ、ウラジオストクなど極東の経済特区政策が進む中、新潟港とナホトカ・ポストチヌイ港とのコンテナ航路における取扱いコンテナ量を見ますと、シベリア・ランド・ブリッジ（SLB）経由貨物をも含め、1989年は2,974本（TEU）と前年の1,693本（TEU）に比べ、75パーセントを超える飛躍的な伸びが見られるところでもあります。

このようなことから、新潟・ナホトカ港の在来船航路を中国天津港に結ぶ「海の三角航路」についても、開設の検討がなされているところでもあります。

新潟県は現在、新潟空港の2,500メートルへの滑走路の拡張や新潟港のコンテナヤードの増設を進めており、貴国をはじめ、日本海沿岸諸国との交流の拠点にふさわしい機能整備に努めているところでもあります。

最近における新潟県と貴国との民間レベルの友好親善の事例を1～2紹介させていただきたいと思っております。

7月12日から14日にかけて、ハバロフスク市のアムール河畔におきまして、新潟県と極東ソビエトの友好親善を目的に、数多くの民間団体、市民団体等の協力を得て、日ソ共同のフェスティバルが開催されました。

シベリアの短い夏の夜を彩る3,000発の大輪花火の競演。

大河アムール川での、日ソ両国の子供たち手作りの灯籠流し。

貴国シベリアに想いを馳せる人たちの交流企画が、大きく花開いたものでありました。

詩情にあふれ、心暖まる友好親善の夕べは時を忘れ、いつまでも続いたことはもちろんであります。

また、7月29日から8月5日にかけては、日ソ友好親善のヨットレースが、880キロメートルを隔てた新潟県の柏崎港とナホトカ港との間で行われました。140名を越える日ソ両国の海の男たちが、20隻のヨットで自由と交流の海を、友情とロマンをセールに託し、競い合ったところであります。

このように、心と心をつなぎとめ、太い絆を築いていく友好交流を継続することは大きな努力を必要とするものでありますが、今後、ますます進展する国際化、情報化と相俟って、大きな成果が生み出されることが期待できるものであり、私はこれからも積極的に支援をしていきたいと考えております。

また、最近における経済交流をみますと、ウラジオストク沿岸貿易見本市や、ナホトカ漁業展への参加や、この9月に開かれる予定のイルクーツク沿岸貿易見本市の参加なども予定しており、本県と貴国の交流は多岐にわたり、大きく広がってきたと言えると思います。

私ごとで恐縮ではありますが、この27日から「新潟県ソ連極東地域経済視察団」団長として、ハバロフスク地方、沿海州地方を訪問させていただくこととしておりましたが、両地方の政治日程などにより延期の要請を受けまして、目下、訪問日程を調整しているところであります。

私は、この訪問を、貴国極東地域と新潟県との新しい友好関係づくりの第一歩を印すものと考えており、経済交流のみならず、教育、文化、スポーツなどについて友好交流の促進に努めたいと考えております。

訪問にあたりましては、両地方の皆様との友好親善はもとより、極東地域における社会、経済状況をお教え願うとともに、今後の港湾の利用、

新航路及び新航空路の開設についても協議させていただきたいと考えているところであり、さらに友好姉妹都市（港）の提携、大学研修生の派遣交換の可能性などの幅広い友好交流について、率直に意見を交換させていただきたいと考えているところであり、

また、最近における貴国との交流の実態並びに今後の交流促進に鑑みて、新潟市に貴国の総領事館を開設することについて国に要望をしているところであり、

世界が大きく動き、また変わろうとしている状況にあって、国際的な友好関係を築きあげていくことは、非常に重要であり。この分野において地方の果たすべき役割りは大きく、またその成果に対する期待も大きいものがあります。

私は県民と共に、世界に開かれた新潟県づくりを重要施策の一つに掲げ、これからも隣国である貴国とはもちろんのこと、アジア・太平洋諸国、全世界の国々との友好交流・親善を推進していきたいと考えております。

終わりに、この日ソ知事会議がこれからも末永く継続され、この会議を通じて新しい日ソ関係づくりが進み、日ソ両国民の真の相互理解と友好親善が更に深まることを期待するものであります。

このような発表の機会をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げ、私の報告を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

## **(2) 意見発表**

### **① レニングラード州ソビエト議長**

**Y. F. ヤーロフ**

尊敬する鈴木知事！

尊敬する紳士淑女のみなさま！

同志のみなさん！

まず初めにレニングラード州の住民を代表して、第 11 回ソ日知事会議の参加者のみなさんに一言ごあいさつ申しあげます。

私の簡単なあいさつの主旨は、日ソ姉妹地域間の直接交流の枠内で、レニングラード州と大阪府、レニングラード市と大阪市との協力の新しい形を探求したいということにあります。

ご列席のみなさんに思い出していただきたいのですが、両市の姉妹都市縁組が正式にととのったのは、「レニングラード・大阪間友好関係の発展協定」が調印されました 1979 年のことです。レニングラード州と大阪府は、1973 年に知事級の代表団を交換しましたが、その後は色々な事情から交流の発展が止まってしまいました。

1987 年 7 月、岸知事を団長とする大阪府代表団がレニングラード州に招かれ、1989 年にはレニングラード州知事のレベルの答礼訪問が行われました。このとき日本側パートナーは大阪で両地域間の協力協定もしくは協力議定書に調印する用意はなかったのですが、わたしたちは姉妹地域間のよい関係が回復したものと考えています。

したがって、今日、レニングラード地域は大阪府・大阪市との接触の活発な発展のためのあらゆる可能性をそなえています。この数年間にわたしたちは多くの成果をあげました。レニングラード、大阪両市の市営事業の専門家の訪問が毎年実施されています。友好デーや友好週間といった総合行事も順調に催されており、文化人、芸術家、スポーツマンの交換や展覧会の相互開催も定期化しています。

ソ連科学アカデミー・レニングラード学術センターやレニングラード大学と、日本の学術機関や大学との緊密な協力が確立しています。ソ連科学アカデミー図書館は日本の 346 の機関と学術文献の交換を行っています。

レニングラードはわが国最古の日本研究センターであります。現在、日本研究家が当市の八つの大学・学術機関で働いていますが、その中で



も大きなのは、ソ連科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支部とレニングラード大学東洋学部です。

日本の古典文学、宗教、社会思想の分野で基礎研究が行われています。現在、ソ連にある日本の手稿や古版本のすべてを網羅した総合目録の作成が計画されています。

レニングラードの人たちは大阪市の日ソ親善協会や日ソ協会の会員との協力を順調に発展させています。

ソ連国内でペレストロイカが活発に進行している今日、経済、科学技術、文化の各分野での互惠協力のための良好な見通しが開かれつつあると、私どもは考えています。レニングラード地域は、ソ連の主要な工業、科学、文化の中心地の一つです。レニングラードの企業は全国の工業生産の約3%を生産しており、多くのコンツェルンや学術生産公団がそれぞれの部門の技術政策を決定し、ソ連国内で主要な位置を占めております。

ここにはソ連科学アカデミー・レニングラード学術センターの32の研究機関があり、約40万人が科学と技術サービスの領域に従事しております。41の大学が300の専門分野にわたって高等教育を身につけた専門家の養成を行っております。

わたしたちが承知しているところでは、大阪府の行政当局と実業界は日本経済における大阪地域の役割をいっそう高めること、大阪を“日本経済のリーダー”にすることを目標にしています。この点でわたしたちの目標は一致しており、互いに希望すればパートナーシップに基づいて効果的に協力し合うことができるでしょう。そのための条件はすべてそろっております。

国が推進している対外経済交流の地方分散化政策によって、レニングラード州の企業と外国のパートナーとの研究・生産面の接触が目立って活発になってきました。

中央に集中した交流レベルだけに限らず、地方レベルでも対外経済政

策を実施する可能性が出現し、各企業がソ連対外経済銀行に独自の外貨口座を持つようになってきています。

1988年からレニングラード州内に合弁企業を設立するプロセスが始まりました。すでに9社が設立され、さらに25の合弁企業の設立交渉が進んでいます。それは、まず第一に、建築材、環境衛生設備、冷蔵庫、洗濯機、家具の製造企業です。

新しい形の協力とソ連の積極的な国際分業への参加の発展をめざす次の措置とみなすべきものに、レニングラード、ブイボルグ両市に経済特区を設置するという、7月に採択されたロシア共和国最高会議決定があります。わたしたちはこの決定をずっと以前から心待ちにし、こうした特区の運営の外国の経験を知ることをも含めて、必要な準備作業を進めてきました。

予想されているところによれば、特区の主要な生産方向は、レニングラードの各科学技術センターで得られるアイデアや研究をもとにしてハイテク製品を開発し、続いて特区内に配置される企業でこれを大量生産することです。原料資源の加工、消費物資の生産、農産物の生産と加工といった他の部門も考慮される予定です。

生産・社会的インフラストラクチャーと、株式を基礎にした商業活動を発展させるために、合弁企業協会が設立される予定です。これにはソ連の企業、合弁企業、外国企業が加盟します。

さまざまな企業からもうすでに30以上の申し込みがきています。活発な活動を行うために、同協会には、株式、有価証券、債券の発行や、外国銀行の融資導入、ソ連対外経済銀行を通さない特区内企業間での外貨交換操作の実施などの権利が与えられるでしょう。

このように、レニングラードとブイボルグにできる経済特区には、レニングラード地域と外国のパートナーとの間の実務協力を発展させるさらに多くの条件がととのうことでしょう。日本の実業界もこの協力事業に参加するよう、わたしたちは呼びかけます。

そして、言うまでもなく、レニングラードとカレリア地方全体は外国人向け観光事業の発展をめざしております。イタリア、米国、カナダ、フィンランドなど一連の西側企業からの申し込みがすでにきております。わたしたちは最も美しいレニングラード郊外の景勝地の一つ、たとえばガッチナに日本文化センターをはじめとする観光総合施設を作るためのすべての条件を日本の実業界に提供する用意があります。これは合弁企業となり、外国人観光客にもソ連人にも大好評を博することでしょう。

レニングラード地域と大阪府、大阪市との交流を、わたしたちはソ日間の善隣・協力の事業の発展への重要な貢献だとみなしています。

この会議において、今日、必ずしもすべての協力形態をわたしたちが活用しているわけでは決してない点を、率直に強調しておきたいと思えます。

たとえば、日本側はレニングラード側から陶磁器、若干の工作機械、自動機器、楽器など、全部で6つの企業の製品しか輸入していません。

日本の官庁は、マイクロエレクトロニクス、ロボット工学、レーザー工学といった一連の自然科学分野では科学技術交流を政府間協定の枠内に限定し、交流の割り当て分を消化するために、主として人文科学の専門家を派遣しております。

わたしたちはパートナーと協力して生産協業や科学技術協業、合弁企業の設立、環境保護、文化・芸術分野の人文科学交流の拡大などの問題を検討する用意があります。

わたしたちは、わたしたちの協力を具体性と活力を与えるために、岸知事を団長とする大阪府代表団がいつでも都合のよい時にレニングラード市とレニングラード州に訪問してくださるようご招待します。

尊敬する紳士淑女のみなさま！

この日ソ知事会議にあたりまして、今後ソ日間の友情関係が発展し、それがさらに高いレベルに仕上がることを希望いたします。皆様のご健康とご成功とご幸福をお祈りいたします。ご清聴ありがとうございます。

た。

## ② 石川県知事 中西 陽一

### 日ソ友好親善の発展について

石川県知事の中西でございます。

このたび、尊敬するソ連の州知事さんをお迎えいたしまして、このような意見発表の機会を頂戴してまことに光栄に存じます。私の意見発表は「日ソの友好親善の発展」ということでありますので、そのテーマに沿って若干申し上げたいと存じます。

なお、参考までに申し上げますと、石川県とシベリアの玄関ナホトカとは、福井、富山、新潟からと同様、船で1昼夜の距離であります。大変近い、ということをごここで強調しておきたいのであります。

それでは、最近における石川県の日ソ友好親善への取り組みを紹介し、意見を述べさせていただきます。

石川県は、大変恵まれた自然環境や歴史的、文化的環境の中で、高等教育機関も17あります。全国有数の伝統産業、また非常に技術水準の高い県内産業があります。とくに先端産業なども増え、経済的に発展しているところであります。

ブルドーザー等を生産している小松製作所は世界的企業であります、これが石川県の産業であります。また、ソ連との貿易では、とくにシベリアの北洋材の輸入を私たちは大変期待しているのであります。

貴国と石川県との関係につきましては、とくに、今回の訪日団に参加されております尊敬するノジコフ議長さんのイルクーツク州との間で約25年にわたり、友好親善を深めているのであります。

現在、イルクーツク州と石川県の間では、イルクーツク市と金沢市、ブラーツク市と七尾市、シェレホフ市と根上町が、それぞれ姉妹都市を提携しており、今年も、それぞれの都市間で、代表団や少年使節団の派遣、交流、とくにスポーツ交流等が活発に行われております。なかでも、

次の時代をになう青少年がお互いの国を理解し、また、国を越えて友情が芽生えることは、大変意義の大きいことだと感じております。今後、そうした機会がさらに増えるように、また、州の中の適当な市との姉妹都市も増やしたいと考えております。

それから、これは大変残念なことでありますが、昨年11月、日ソ協会石川県連合会会長を長く務められ、日ソ友好親善に情熱を傾けてこられました根上町長の森 茂喜さんが亡くなりました。イルクーツク州のシェレホフ市を第二の故郷とし、日ソ間の友好親善を心から念願しておられた方であります。この8月19日にシェレホフ市の墓地で市民の大変なご好意の下に遺骨が安置されました。これについては、ノジコフ知事さんの大変なご努力を頂いたことを、改めて御礼申し上げるものであります。

また、イルクーツク市には、「金沢通り」と名付けられた通りがあります。これは、本当に、心のつながった日ソ友好の証しだと感じております。

現在、日ソ協会石川県連合会が、三つの姉妹都市を訪問中であります。いろいろな伝統的なものを持って訪問しておりますが、とくに着物ショーの開催など文化交流も企画しております。

また、経済交流では、今年の9月にイルクーツク市で開催される「第15回沿岸貿易日本商品専門見本市」について、県や姉妹都市が支援し、石川県の展示面積を大幅に増やすことにいたしました。

学術交流の面でも、私が会長をいたしております「(社)北陸経済調査会」が、平成元年度から「シベリア開発の現状と環日本海経済圏の将来調査」を行っております。今月の下旬には、2回目の調査団を派遣し、バイカル湖の環境保全や北陸地域との経済交流の可能性等についての調査研究をソ連と共同で行うことになっております。

芸術文化の交流では、ノジコフ議長からご提案になりました、イルクーツク音楽協会の交響楽団の石川県への訪問につきましては、これを

心から歓迎いたしております。受入れの意思表示をすでに申し上げたところでもあります。また、できれば、石川県から明年同様に市民のオーケストラを派遣したいし、伝統的な芸能も含め芸術文化の交流を活発に行っていきたいと考えております。

また、石川県では、国際交流については県民の関心が大変高く、いろいろな市民団体が外国の人々への日本語教育やホームステイ、通訳などのお世話をいたしているところでもあります。

今ご紹介いたしましたこれらの友好親善交流は、地域社会や地域住民が中心となり、お互いに心から理解を深めようとするいわゆる草の根交流であります。

今後、国際化が一層進展してまいります。この重要な役割を担うのは、地域住民にとくに密着している地方自治体であろうかと考えており

このために、石川県では、市町村や民間と連携し合って、貴国をはじめ、諸外国との交流を積極的に推進し、国際社会の中での役割を果たしたいと考えております。

環日本海地域の交流は、これまでのところ、沿岸諸国との体制の違い等もありまして、まだその成果は十分ではありませんが、私は将来に大変希望を持っているのであります。

日本国民は、現在、ペレストロイカとグラスノスチの推進をしておられます貴国のゴルバチョフ大統領に、世界のリーダーとしての大変な好感と親しみを抱いております。

来年には、私どもが待望しておりますゴルバチョフ大統領の訪日が実現する見通しのようであります。是非、海部総理との会談等を通じて、日本国民が最も関心を持っております日ソ間における外交上の懸案事項の解決へ前進し、今後の友好親善や学術・文化・経済等の交流を一層推進する上で、実りのあるものとなるよう大きく期待をしているものでございます。

日ソ間の交流の拡大を中心として、日本海沿岸諸国は、21世紀に向け

て、「交流と発展」の新しい環日本海時代を迎えたと考えております。

今後とも、日ソの一層の友好親善と平和な国際社会を目指し、日ソ両国の知事がお互いに協力し合いながら、相互の理解を深めて参りたいと思います。

以上で私の発言を終わります。パリショイ・スパシーバ。

### ③ ミンスク州執行委員会議長

#### A. I. ティシュケビッチ

議長さん、会場の皆様。

17年というものの、ミンスクとその姉妹都市である宮城県の仙台市の友好関係が続いています。この間に世界では少なからぬ難しい事件がおき、それぞれの姉妹都市の指導部も変わりましたが、我々の友好関係発展の妨げとはなりませんでした。

うれしいことに、我々の友情の発端は19世紀の初めまでさかのぼるものであります。ロシアの最初の駐日領事はミンスク州出身のゴシケーヴィチでした。1838年から1865年まで彼は常に日本の函館でロシア領事として滞在し、最初の日露辞典の資料を集め、「ロシア語読本、日本の子供たちへのプレゼント」という本を準備し、出版しました。

我々の友好関係は、様々な形をとっています。それは代表団、観光団の交換、写真展、映画、広報資料、スポーツ交流、児童画展などです。

交流の発展を助けてきたのは、1981年にミンスクにソ日協会支部が作られたことでもあります。この時から旅行団、代表団の交換が増え、相互関係がより組織的になってきました。仙台ではミンスクデーが、ミンスクでは仙台デーが催されました。

我々の友好交流は昨年とても充実していました。4月に、日本へ向けてミンスクのスポーツ団がやってきました。その目的は日本の女子駅伝への参加であり、これは仙台の市政100周年の記念行事でした。その競技会にこの他参加したのは、リバーサイド市（アメリカ）、レーヌ（フ

ランス)、長春(中国)、アカプルコ(メキシコ)その他日本国内の大都市からの23チームでした。

また5月には、仙台市と宮城県をミンスク州の組合代表団が訪れました。7月には仙台と東京にミンスク市執行委員会と専門代表団が訪れ、医療関係、社会福祉、教育関係の交流が行われました。代表たちは仙台の「河北新報」の編集部を訪れ、市役所を訪れました。

8月にはミンスクから別の代表団が来て、仙台で、市政100周年を祝う「五つの姉妹都市国際会議」に参加しました。テーマは「21世紀に向けての都市計画」でした。

我々の協力関係で成功している例の一つは児童画コンクールで、そのテーマは世界姉妹都市デーです。毎年、日本の小中学生の絵がミンスクのピオネール宮殿で展示されます。映画館「ピオネール」や学校でも展示されています。子供たちの作品は仙台の展覧会で入賞したもので、白ロシアのテレビは「虹の七色」、「子午線」、「どの絵にも太陽を！」という番組にその絵を使ってきました。

白ロシアを一度ならず日本の芸術家やアンサンブルが訪れています。その中には「ロイヤル・ナイツ」、チェリストの「イワキ・ヒロユキ」、松竹歌舞団、「シャープアンドフラット」、「ミュージカル・アカデミー」、ピアニストの小林ヒトシ、指揮者外山雄三、ぬいぐるみ人形劇団「飛行船」があります。

我々の交流が新たな局面を迎えたのは、チェルノブイリの悲劇であります。これは白ロシアの人々の生活に大変な打撃を与えました。宮城県労評はミンスク州労組評議会の医療援助を求めるアピールに答えてくださいました。

宮城県からの回答の一部を引用します。

「我々は決して忘れることはできませんし、忘れてはならない事実があります。それは、日本の政府が原爆の被爆者たちを無視している時でも、ソ連を初めとして多くの国々が、この人々に医療援助を積極的に与



えてくれたということです。

緊急に要領よく手をうつことが必要だと考え、すべての団体に呼びかけ、チェルノブイリの被ばく者たちに全国民的な規模での支援運動を展開するため、マスコミの力を借りる予定であります。

県労評の幹部の要望により、こちらからは仙台へ医療機器のリストを送りました。被ばく者たちの診断と治療に特に必要なものばかりであります。

白ロシアのミンスク州では、国内のどことも同じように大きな変化が生じています。経済構造が変化し、経済は徐々に多元的な構造へ、市場関係へと移りつつあります。

このような条件下で、ことに重要になってきているのが我々の貿易経済関係です。今のところまだ弱いものですが、ここで重要な意味をもつのは、両国を隔てている大きな距離です。両国は隣国同士ですが、日本と白ロシアは何千キロも離れているのです。

ペレストロイカには、先進的な生産技術が必要です。日本のような先進国の経済の経験が必要です。まずもって我々の経済協力で将来性があるのは合弁企業です。日本の企業家たちがきつと関心をもたれるのは合弁事業で、亜麻製品、ジャガイモ、泥炭、木材、カリウム工場の廃物や畜産製品を作ることだと思えます。

いわゆる先触れとなるものは現れました。ミンスク州に作られた「ローゼック・ベラルーシ」であります。ソ連・中国、日本の合弁企業であります。この支社は建築資材の製造で活躍しており、御影石の板、木材加工製品、レンガ工場の製品、建築用設備その他を製造しています。

このような企業は良い例であり、こういうものがもっともって増えていけばよいと思っています。

姉妹都市同士、地域同士の多面的な友好関係はまちがいなく両国間の協力全体に、ひいては世界全体の平和の強化に貢献するものでありましょう。どうもありがとうございました。

④ 北海道知事 横路 孝弘

日ソ友好親善の発展について

只今ご指名を頂きました北海道知事の横路でございます。

この意義深い第 11 回日ソ知事会議におきまして、発言の機会を得られましたことを、心から感謝申し上げます。

私はこの 6 月に、ロシア共和国閣僚会議のお招きを頂きまして、モスクワ、ウラジオストック、ユジノサハリンスク、ハバロフスクの各地を訪問しましたが、各地で大変暖い歓迎を頂きましたことを、この場を借りて心から感謝を申し上げたいと思います。

ご承知のとおり、北海道にとってソ連の極東地域は最も近い隣国であり、これまで様々な交流が展開されて参りました。少しその交流をご紹介したいと思います。

現在、両地域間で姉妹提携を行っている都市は七つあります。特にナホトカ市と小樽市、それからユジノサハリンスク市と旭川市では 20 年以上の長い交流の歴史を持っております。

また、新しいところでは、この 6 月に、ノボシビルスク市と札幌市が友好関係を結び、現在、市長が札幌の代表団を率いて訪問中であります。

こうした姉妹都市のほかにも、民間レベルで、この両地域間の貿易や友好の促進を図ることを目的とした「日ソ極東・北海道友好交流会議」が 1984 年から始まっており、昨年、札幌市で 4 回目の交流会議が開催されたところであります。この会議を通じてお互いの理解は大変深まりました。その意味では、この会議は大きな役割を果たしたものと、私どもは高く評価しております。

また、スポーツの分野はもう大分古く、1972 年から、陸上競技やスキー、スケートなどの分野にわたるスポーツ交流が毎年定期的に行われております。今日まで 20 年近い歴史を持っております。

最近では、先月、サハリン州の中学生 81 名が、直接稚内港に上陸して北海道の中学生と交歓をいたしましたし、また今月は、北海道の方から

中学生がサハリン州を訪問して、キャンプやスポーツ交流を通じてお互いの友情を築いているところでもあります。

このような交流が可能になりましたのも、昨年から稚内とサハリンを結ぶ観光船が年十数回往来するようになったからであります。やはりお互いの地域の交流を深める上で交通の問題が大変大きな問題だということを実感しております。

文化の面では、現在、札幌で、19世紀ロシア絵画展が開催されておりました、お国の歴史的な優れた芸術に触れて、多くの道民が感動を受けております。

こういった文化交流や、また、北海道と極東地域には、古くからオホーツク海沿岸に発達した共通の文化と歴史がありますが、こうした歴史や文化について、今年から、両地域の博物館同士による共同研究もスタートいたしました。これには、お国ばかりでなく、中国の黒竜江省も参加して頂いております。

このように、大変幅広い分野の交流が広がっているわけではありますが、もともと、隣国同士がお互いの理解を深め、貿易を行い、さらにお互いに発展しようとするのはごく自然なことでもあります。

しかし、最近までこれが仲々うまくいかないという世界情勢にあったことは、大変残念なことだと思っております。

しかし今、世界は本当に大きく変化しており、対話と協調を基にした新しい国際社会の枠組みづくりが進んでいるわけでもあります。

その背景には、お国が現在進めているペレストロイカが大変大きな役割を果たしていると考えております。

私どもは、ヨーロッパにおいて、国境を超えた統合（ヨーロッパは一つの家だということでの統合）が進められておりますが、アジアにおいても、国と国との間の壁を低くする努力が求められていると思います。このことは、国と国との交流はもとより、地域と地域とのつながりを深め、きずなを強めることによって、実現されるものだと思います。今の

段階でまさに地方自治体相互の交流が大きく期待され、またその重要性、役割も増えていると考えております。

私は、1983年に知事に就任してから、3回お招きを頂いてお国を訪問しております。

最初は1985年、それから1987年、そして今年の6月に訪問させて頂きました。

今回の訪問では、北海道とソ連極東地域との貿易・技術協力などの経済交流の促進、あるいは交通アクセスの可能性、あるいはまた北方領土問題などについても率直に意見交換をしたところであり、ロシア共和国との間で、広範な分野で交流を推進する、という合意をいたしました。

今後、この合意に基づいて、双方に常設の合同委員会を設立し、主として経済交流を進めて行こう、そのほか、科学技術、文化、スポーツなどの面で、交流を大いに拡大して行きたい、と思っております。

この6月に訪問したときに、当時のヤコブレフ政治局員にお目にかかり、ペレストロイカについていろいろお話を伺いましたが、大変多くの人々が努力され、またご苦労されている様子をお聞きしました。こうしたご努力に敬意を表しますと同時に、ペレストロイカの成功を私どもは心から期待しております。

北海道としても、皆さん方が進めておられるこのペレストロイカを支援して行きたいと考えております。そして、お互いの発展のために、できる限りの努力をしていきたいと思っております。

先程来、日本側からもお話がありましたが、我が国とお国とが友好関係を進めていく上で、何といたっても大きな問題として存在しているのが北方領土問題であります。私は、この問題が1日も早く解決され、両国間に平和条約が締結される日がくることを待ち望んでおります。

この9月には、シュワルナゼ外務大臣が、また来春にはゴルバチョフ大統領が日本に来られるわけではありますが、この訪日によって、両国関係が基本的に改善されることを期待しております。そしてまた北海道が

今取り組んでいるソ連極東地域との交流の拡大は、さまざまな問題の解決に向けて良い環境をつくることになるものと確信しております。

最後になりますが、毎年北海道から、サハリンなどへの墓参団を出しておりますが、今年エトロフ島にはじめて墓参ができるようになりました。こうした要望が実現したことを感謝申し上げたいと思います。

たくさんの方がおりますけれども、それらの問題をお互いの努力によって解決し、交流を拡大して行こうという私どもの試みは、次の世紀、21世紀に向けて、私たちの次の世代が本当に真の友人として共に協力し、この地域の発展並びに人類の平和と繁栄を築き上げていくことに大きく貢献するものと確信しております。

この、11回を迎えた日ソ知事会議が大きな成果をあげることを期待いたします。北海道とソ連とくに極東地域との交流についてのご紹介をさせていただきます。

ありがとうございました。

### **③ 関連発言**

#### **① ボルゴグラード州ソビエト議長**

##### **V. A. マハラゼ**

尊敬する鈴木議長さん、会場の皆様。

ボルゴグラード市民を代表して挨拶させていただきます。

私たちの町は、広島市とすでに30年の長い友好関係の歴史を持っております。ここでさまざまな友好運動が行われてきましたが、たとえば45年前のスターリングラードの戦いの勝利を記念した式典に日本の代表団が参加しました。

また私は、日ソの共同事業に関しては、皆様に申し上げるべきことが沢山あるのですが、時間が余りありません。ロシアでは今さまざまな変化が起きております。この短い時間で私は一つだけ申し上げたいのですが、地域間のレベルで、皆さんとともに、二つの国民の関係を近づけて

とができると思います。

私たちの州には 260 万の住民がおります。これは 100 億ルーブルの生産高をあげており、農業及び工業の発達した州であります。私たちの地域間の関係を発展させるためには、我々の州では次のことができると思います。実業家団の協会をつくることでもあります。日本との経済交流を深めるためでもあります。そして、そのようなものは日本でも作って頂けるのではないのでしょうか。

また、自治体同士の交流も、もっと活発化できると思います。この日ソ知事会議、そして日本の知事会を通じまして、我々の州にいくつかの代表団をお迎えしたいと思います。そして我々の自治体のさまざまな働き手たちの前で話をして頂きたいと思います。私たちが皆さん方の豊かな経験を学ぶためでもあります。

私たちは、大分県に村おこしの運動があることをよく知っております。一村一品という運動だそうです。この運動は、非常に全人類的な意味を持っていると思います。つまりここでは、どんなイデオロギーもじゃまになるものではありません。ですからこのような経験を私たちの州の中でも生かして行くことができるのではないかと考えます。平松知事に是非お話し頂きたいし、また、その県の経験を話して頂きたいと思います。

また産業廃棄物の処理の問題についても、ご意見を伺いたいと思います。これは、冶金とか化学工業における廃棄物です。我が州には、ボルガ川という立派なロシアの川があります。これはきっと、観光客の皆さんにとって非常に面白い対象になると思います。

私たちにはわかっておりますが、もちろん、極東は私たちの州と比べて日本にずっと近い所にあります。しかし、もっともっと勇敢に、大胆に、奥の方まで入ってきて頂きたいと思います。そして、我々の関係を活発化させようではありませんか。

公式の、あらたまった言葉から離れて申し上げますが、私たちは、日本にすばらしい芸術、生け花というものがあるのを知っております。つ

まり、すばらしいものを作り出す。そのために必要な辛抱、そして才能を日本の方たちは備えていらっしゃる。そして、一つ一つの花の良さを生かして行く方法を知っていらっしゃる。私たちも、我々の関係において、このすばらしい芸術である生け花のような関係を作って行こうではありませんか。

つまり、一つ一つの花びらを大事にし、どれをもきずつけないように生かして行こうと考えています。私たちはこういうことをちゃんと成果あらしめるために、辛抱強く事を進めて行きたいと覚悟しております。そしてまた、すばらしい素材と花の調和を見出すための努力をしようと思っております。

このように、双方いっしょに協力し合っていくことによって、すばらしい成果をあげることができると確信しております。

ご出席の皆さんのご健康とご多幸を祈ります。

ありがとうございました。

## ② ノボシビルスク州執行委員会議長

### V. A. ボコフ

尊敬するみなさん、同志のみなさま！

まずはじめにノボシビルスクの住民を代表して、第 11 回ソ日知事会議の参加者全員に心からの熱烈な挨拶をお送りするとともに、このわれわれの共同の作業が実り多いものとなるよう希望いたします。

ご存知のように、わが国、とくにその東の地域は、日本との協力に特別な役割と意義をあたえてきました。ですから、政治的な関係、経済・文化関係の発展は、国家のレベルにおいても、また、地域、都市のレベルでも、大きいとはいえなくともある程度の成果を得ておりますが、とくにここ 2 年間はよい結果をもたらしております。

1988 年からは、ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場と、北海道にあります小沢氏が指導する国際舞踊劇場との間の協力協定が効力を発し

ており、毎年合同公演が開催されております。

スポーツの関係も発展しつつあります。1989年8月、ノボシビルスクの少年アイスホッケー・チームが札幌で行われた国際試合に参加し、一位を獲得しました。1989年10月には、4人の選手が札幌マラソンに出場しました。

昨年は、非常に重要な政治的な会議がいくつかもたれました。ソ連の代表団は、日ソ沿岸市長会議および第4回極東会議に参加いたしました。吉野晃司議長を団長とする札幌市議会の代表団がノボシビルスクを訪れましたが、代表団のメンバーにはノボシビルスクでは有名な助役の桂信雄さんも加わっていました。桂助役が私どもの市にいらしたのはこれがはじめてではありません。

政治面でのコンタクトの成果となったのは、1990年の6月13日に調印した札幌市とノボシビルスク市との姉妹都市協定の締結でありましょう。この協定により、今後は、文化・学術代表団の交流を通して、文化・学術関係を発展させ、展覧会、コンサートの開催、考古学および教育学の共同研究、眼科の顕微外科手術分野での交流を実施してゆくこととなります。経済関係は、セミナー、見本市の共同開催、経済関係の雑誌に発表する論文の交換、札幌とノボシビルスクの物産の常設展示会の形ですすめられることになるでしょう。その他、青年の友好関係発展や、スポーツ交流も予定しております。

この機会を利用しまして、ノボシビルスク州について少しお話させていただきます。

ノボシビルスク州と市の歴史はきわめて若く、1993年にはノボシビルスク100周年を祝うべく準備中です。しかしこの短い間に、非常に発達した工業をもち、州の住民の食料を保障し、全ソ食料ファンドにも供給しております。また、わが国の学術の中心地の一つでもあります。

産業の構造を分野別にみますと、最も大きな比重を占めているのは機械製造業です。企業体は近代的な工作機械、マシニングセンター、ター



ビン発電機、水力発電機、電気炉、鑄造用自動ライン、エレクトロニクス機器、光学機器、重合体、消費物資などを生産しています。ノボシビルスクの企業の製品は、世界 100 か国へ輸出されております。

1985 年には地下鉄がはじめて開通し、現在では七つの駅がありますが、今年にはさらに三つの駅が準備中です。

全ソ科学アカデミーの三つの支部がノボシビルスクにあり、そこに属する 33 の研究所では、科学アカデミー会員、博士などの指導のもとに、現代の科学技術のあらゆる分野の基礎研究、応用研究がおこなわれております。そして 6 万人以上の学生たちが、市内の大学で学んでおります。ノボシビルスクには、六つの劇場があり、国立ノボシビルスク・アカデミー・オペラ・バレエ劇場は、国の内外でもよく知られております。この劇場は世界 15 か国で公演しており、日本でも何度か公演しています。

日本との業務的な友好関係を発展させることにより、互恵の経済協力の本質的な拡大をはかる予定です。では、このような協力の発展の可能性は、どこにあるのでしょうか？

まず貿易関係の拡大です。ノボシビルスク州の企業は、各種の建設機械、木材の完全加工用設備、リノリウム製造設備、環境衛生設備、家具製造設備、食肉・乳製品その他の食品の加工包装梱包ライン、品質の高い消費物資を日本から輸入することに興味をもっております。

こちら側からは、日本に対して、大変興味のあると思われる製品や原料がありますが、その中にはフッ素樹脂シート、紡績機、広葉樹木材、家具製造用荒仕上げ半製品、泥炭、屑鉄、反古紙、プラスチック廃材、ブリキ廃材、蜂蜜、わらび、消費財などがあります。日本のパートナーの関心を考慮して、これ以外のものを提案することもできます。

時間の関係で、輸出入可能なすべての資源を挙げることは出来ませんが、詳細なリストを準備してきておりますので、話し合いの過程で、コンペンセーション方式の貿易のさまざまな方向と方法を検討出来ることと思っております。

もう一つの協力は、合弁企業の設立の可能性と言えましょう。われわれを隔てている膨大な距離を考えると、日本の企業の参加のもとに二次原料および廃材、特に木材の廃材、反古紙の再加工の企業、環境衛生設備製造、リノリウム製造企業をわれわれの州に建設することを検討するのは目的にかなっているのではないのでしょうか。そしてこれらの企業は、ソ連の原料、エネルギー源と労働力、日本製の機械設備を使って、ソ連と日本の需要を満たす品質の高い製品を製造するというわけです。合弁企業は、現在ノボシビルスクにある縫製産業、ニット産業、家具製造の工場を基盤に創設することも可能です。経済協力を成功裡に発展させ、互惠の形態を見出すためには、お互いをより良く知る必要があります。従ってわれわれは、文化関係をより高いレベルに引き上げ、科学、技術、産業のあらゆる分野の専門家の代表団を定期的に交流させる事が非常に重要であるし、有益であると考えます。つまり、さまざまな機会を利用して、両国民の文化の伝統と経営の特殊性を学ぶことであります。

最後に、この会議を定期的に開催することが重要かつ有益であり、それが、平和と創造のための新しい協力の展望を開いてくれるということ

を強調させていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございます。

### ③ 山口県知事 平井 龍

#### 日ソ友好親善の発展について

山口県知事の平井でございます。

本日は、去る 1988 年 8 月第 10 回の日ソ知事会議の席上お目にかかりました尊敬するチェレパノフ議長さんを始め、多数のソ連代表団の方に、ここ日本で再びお会いできましたことを大変嬉しく、懐しく思うところであります。

訪ソの際は、副団長として、モスクワ、ボルゴグラード、そしてレニングラードを訪問する機会を得ましたし、多くの価値ある史跡や施設、

産業を視察させていただきますとともに、尊敬する各州の知事さんや要路の方々、また、敬愛するソ連国民の皆様方からいただきましたご厚情に対し、ここに改めて心からお礼申し上げます。

先般の会議の際、私は「日ソ友好親善関係の発展について」という基調報告の中におきまして、「日本国民の一致した願いである北方領土返還がなされてこそ、はじめて真の相互信頼に基づく日ソ友好関係が確立される。」と述べたところであります。

現在、貴国では、ペレストロイカの推進により、政治、経済などあらゆる分野で改革が進められております。本日ここにご出席の皆様方は、この新しい時代の担い手としての重責を担っておられると承っております。何卒、我が国民の悲願である北方領土の早期返還を実現して、貴国との間に平和条約を締結し、真に安定した恒久的な友好関係が確立されることを強く期待致すものであります。

私は、160万県民とともに、北方領土問題という日ソ間のトゲが抜かれ、自治体、民間一体となった日ソ友好親善の発展を強く希望するものであります。

来る9月には、モスクワで「日本文化ウイーク」が開催され、山口県からも郷土芸能の「平家踊り」が参加することになっております。このような文化交流を始め、あらゆる分野の交流がますます深まり、自治体をはじめ日ソ両国民の相互理解と友好親善が更に進展し、アジア、ひいては世界の恒久平和が実現されることを心から期待するものであります。

最後になりましたが、チェレパノフ議長さんをはじめ訪日団の皆様方のますますのご発展と、わが国でのご滞在が有意義なものとなりますようお祈り申し上げまして私の発言を終わります。

#### ④ 長崎県知事 高田 勇

##### 国際交流拡大への希望と長崎「旅」博覧会への協力お礼

日ソ地方団体の関係といえ、どうしても日本海沿岸の各県が主力と

なりますが、南の九州にもきわめて関係の深い県がありますことをご報告申し上げたいと存じます。

長崎県は、帝政ロシア時代以来、お国とは日本のどこよりも古くから交流の歴史を持っております。

西暦 1853 年、はじめてお国の艦艇が日本の開国を求めて長崎の港に入港しまして以来、冬になるとウラジオストックからたくさんの軍艦が長崎の港に入港いたしました。

長崎には、その当時亡くなられたソビエトの方々をまつる国内では最大級の国際墓地があります。1,000 人以上の方をまつっている墓地であります。今も大事に維持管理されております。

最近では、ソビエトからの観光船が毎年のように長崎の港に入港し、今までに 85 隻入港し、親善交流を深めております。

また、現在、地元で博覧会を開催しておりますが、この博覧会に美術品の出展を申し入れ、エルミタージュ博物館ほか 6 館から、貴重で珍しい美術品の提供について積極的なご協力を頂いております。多くの人々を乗せた帆船の派遣もして頂くことになっております。こうしたことを契機として、さらに交流を発展させて参りたいと考えております。

まずこのことをご報告申し上げた上で、ひとつご意見を申し述べたいと存じます。それは、世界の平和のために、アジア地域でも緊張緩和を具体的に進めるために、是非ご協力を頂きたいということでもあります。

ご案内のとおり、今から 45 年前の 1945 年、長崎市と広島市に原子爆弾が投下されました。長崎市では、約 8 万人の市民が一瞬の中に尊い生命を絶たれたのであります。そして今もなお、多くの被爆者が放射能の後遺症に悩んでおります。そういう被爆都市・長崎市を本県は抱えております。

また一方で、本県は、日米安全保障条約に基づき、米軍に基地を提供している佐世保市を抱えております。

こうした被爆都市・長崎市、基地の都市・佐世保市を抱える知事とし

て、私は、世界の平和と核兵器の廃絶を、今日まで主張して参っております。

貴国のゴルバチョフ大統領閣下の積極的なご協力によりまして、いま世界は対話と協調の時代を迎えようとしております。とくに、ヨーロッパにおける緊張緩和は一段と進み、中距離核兵器の全廃が実現し、さらに戦略核兵器の削減交渉の基本合意がなされるなど、まことに喜びにたえません。

しかしながら、このような変化のきざしは、アジアでも見られつつはありますが、ヨーロッパの動きに比べればまことに遅々としており、本格的な動きとなっておりません。残念であります。

アジア地域の平和と安定のためにも、米ソ両大国が、ヨーロッパにおけると同様に、具体的に核兵器の削減に向けて積極的に貢献されることを願ってやみません。

外交の問題は、基本的には国家間の処理事項であることは存じておりますが、皆様方が国に働きかけていただくことによって、さらに大きな成果を得ることができると思うのであります。

核兵器の脅威というのは、それはすさまじく、恐ろしいものであります。先程、チェレパノフ議長のご挨拶にもありましたように、歴史が課した核兵器の完全廃絶の課題は、政府だけでなく、我々にも大きな役割を課した、というお話を頂きました。地方団体の皆様方の大きな働きかけが、成果を得ることができると思うのであります。

日ソ知事会議が、核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向けて、その役割を果たすことができますならば、これに過ぎる喜びはありません。日ソのさらなる友好親善を深めるためには、軍備の脅威を取り除くことが何ととっても一番であると思います。

日ソ知事会議の声が広く反映されることをお願い申し上げ、被爆都市を抱える知事として一言ご要望とご意見を申し上げた次第であります。

⑤ 福井県知事 栗田 幸雄

## 国際青年・婦人の船について

福井県知事の栗田でございます。私からは、福井県が先導的に実施してきております「国際青年・婦人の船」の派遣事業についてお話させていただきます。

今年も7月31日に、青年の船170名、婦人の船32名、合計202名が、貴国を訪問するために、ソ連極東船舶公社所属の客船サドフスカヤ号で敦賀港を出発いたしました。8月14日に全員無事帰って参りました。

この事業は、青年の船が「ユーラシアの連帯」を研修テーマとしてモスクワ・バルトのコースあるいはモスクワ・シルクロード・コースなど五つのコースを設けており、また、婦人の船が「ふれあいの旅、私の発見」をテーマとしてモスクワと西ドイツのビンゼン、ブラウバッハの二つのコースに分かれて貴国を中心にしてフィンランド、西ドイツ、デンマークを訪ねて友好親善を図っているものであります。20代の多くの青年たちが貴国を訪問して研修することは、民間レベルでの交流を広げ相互理解を深める上で大変意義が深いものであると考えております。

団長や団員の選定にあたっては、福井県内の各界各層、各地域から幅広く行っており、今年も20代を中心にして学生、会社員、教員、公務員あるいは婦人団体役員、農林漁業者が参加いたしました。

この青年・婦人の船の歴史を振り返ってみますと、1971年に、国際化社会の到来に備えて、当初訪ソ青年の船として始めたわけですが、この事業も今年で20回を数えるに至りました。また、婦人の船は5年遅れて1976年にスタートし、今年で15回目を迎えました。

この20年間、福井県の3,172名を含む5,441名もの青年・婦人がモスクワやレニングラードをはじめ29の都市を訪問いたし、貴国の青年・婦人をはじめ多くの皆さんと交流を深めて参りました。この訪問により、県民各層で貴国への関心が高まりまして、両国の友好親善に多大の貢献を果たしたものと確信しております。また、彼らが帰国後、この貴重な研修体験を職場あるいは地域社会づくりで大いに生かし、活躍している

ことは、まことに喜ばしいことでもあります。

ところで、この事業は、日ソ両国の友好親善を願って、当時のハバロフスク会のお骨折りによって始まったわけではありますが、年によってばらつきはありましたものの、日本海側各県だけでなく、青森県、岩手県、山口県、徳島県、香川県まで全国 28 府県がこれに参加して頂いております。

なかでも、第 2 回には、20 年間の青年の船の歴史の中で最も多い 517 名の団員が訪問をいたしました。その後 1979 年の第 9 回までは、福井県だけでなく多くの府県が共同参加をして頂いたわけではありますが、1980 年の第 10 回以降は徐々に各府県が独自に代表団を派遣するようになりました。現在では福井県が中心となりまして、石川県、奈良県、香川県の各県が共同参加をして頂いております。

こうした移り変わりを見ましても、我が国の各府県が貴国との交流をいかに重要視しているか、そしてまた、友好親善、貿易・経済・文化面での発展を願っているかがうかがい知れるわけでもあります。

この事業の 20 年間の歴史のなかで、福井県がこの事業の草分け的存在であったことに大きな誇りを感じ、また大変名誉に感じているわけでもあります。そして今後も福井県の果たさなければならない責任の重要性を痛感しております。

私は 1982 年、「第 12 回訪ソ青年・婦人の船」の総団長として貴国を訪問いたしました。これは、私にとってはじめてのソビエト訪問でありましたが、ナホトカに着きました時に、「姉妹都市舞鶴—ナホトカの碑」がありまして、そこに「日本海が永久に平和と友情の海であるように」という碑文が刻まれておりました。これを見たときには、一衣帯水の両国の間の真の友好を期待する気持ちでいっぱいになったものであります。今もその時の感動は忘れることができません。

これらの事業が 20 周年、15 周年を迎えましたので、福井県では、今年の秋に、これまでに参加した団員を一堂に集めて記念の集いを行うことを計画しております。その折には、駐日ソ連大使閣下には是非お越しをい

ただいて、これまで多くのお力添えを賜りました貴国に感謝の意を表したいと考えておりますし、また今後一層の充実発展の節目にもしたいと考えておりますので、駐日ソ連大使閣下には是非ご出席頂きたいと考えております。

最後に、この20年間、我々を温かく迎えて頂きました貴国関係機関の皆様方、そしてソビエト国民に対しまして、福井県を代表して衷心からお礼を申し上げますとともに、この事業がさらに30回、40回と回を重ね、この事業を通じて両国の政治・経済・文化面での友好・親善が深まりますように祈念いたしております。

ご清聴ありがとうございました。

<昼食・休憩>

(別館2階レストラン富士)

12:30～13:30)

## 第2議題 「日ソ貿易・経済の協力について」

### (1) 主報告

#### ① ロシア共和国対外貿易公団総裁

##### I. V. ベロツェルコフスキー

尊敬する鈴木議長閣下、会場の皆さん。

2年前に第10回日ソ知事会議がモスクワで開かれました。2年前には、全ロシア対外貿易公団は、我が国の対外貿易関係のペレストロイカに沿って作られたばかりで、海外のパートナーとの貿易経済活動を始めたばかりでした。その主要な活動方向が、ロシア連邦の共和国の各省庁、様々な地域の諸企業や団体が日本をはじめとする諸外国との経済関係をより活発化させるということに定まったばかりだったのです。

この比較的短い期間に、ロシア連邦では、重要な出来事が次々におきました。それは皆さんご存じのとおりです。

ロシアの現実において、極めて重大な事件はロシア共和国の第1回人



民代議員大会であります。そこでは、ロシア共和国の主権宣言が採択されたのです。

当然ながら、我が共和国の社会・経済における大きな変化——何よりもまず政治・経済の新しい構造が形成されたということですが——その変化は共和国の対外経済交流の発展にも影響を与えないわけがありませんでした。現在、これらの対外経済交流を改善し、共和国内で行われている経済改革に対応していく努力がなされています。

最近の、このロシア共和国の第1回人民代議員大会で強調されたのですが、ロシア共和国の主権強化のポイントは、対外経済活動の自主権ということでした。

共和国の経済主権についてのこのような原則を発展させ、ロシア共和国最高会議の定例会は、ロシア共和国閣僚会議の新しい構成を承認し、そこには共和国対外経済省が創設されました。

また、ロシア共和国の人民代議員大会で法令がつくられ共和国内の諸組織の監督機能の分担が定められ、共和国最高会議に直属する共和国対外経済銀行が置かれることになりました。

ロシア共和国の新政府はここ数年が共和国の発展にとって困難が多い時期となることを、ことに東部地域においては困難が多いであろうと考えております。多くの工場の設備の刷新が必要ですし、まず、社会的な役割の高い部分から手をつけていくつもりです。

我々の理解では、対外経済関係の有効性を決めるのは、新しい経済条件において、これらの関係を地方行政当局や各企業がどれだけ積極的に発展させていくことができるかということでもあります。

ロシア共和国の貿易経済関係全体の発展において、重要な役割を担っているのがロシア共和国対外貿易公団であります。これは、50か国余りの国々と貿易関係を結んでおります。1989年にこの公団の取引高は10億ドルに達し、1988年よりも3分の1増加しています。

喜ばしいことに、日ソ知事会議の第10回会議の時よりも、ロシア共和

国対外貿易公団の対日貿易額は著しく増大しております。1989年には、2億5,000万ドルに達し、これは、1988年の約1.5倍になります。

昨年の総括では、日本はロシア共和国対外貿易公団の相手国の中で第1位になりました。

ソ連の東部地域が参加している沿岸貿易（これには日本の多くの県の中小企業が参加しています）は、額は余り多くなく、小貿易だとは言えますけれども、しかし第二義的なものだとは言えません。それは、我が国の極東地方の社会経済において、また、日本の実業界においても、非常に大きな役割を果たしております。第11回会議の直前にも、ずい分多くの契約が結ばれました。その額は約2,500万ドルです。

ロシア共和国対外貿易公団は、様々な工場の設備の刷新や、近代化の計画を作成し、輸出力増大に協力し、ロシアの製品の世界市場における競争力を高めていくつもりであります。

最近だけでも、ウスチ・イリムスク木材コンビナート用のチップ選別プラントで約900万ドルの買付けを行い、また、エチレン製造工程の自動制御システムをサラヴァト・ネフチェシンテスという企業のために買付けました。約600万ドルです。

昨年は、対日貿易拡大という問題をどう解決するかという我々のアプローチが次々に大きな成果を挙げた年であります。これに関して、皆さんの注意を向けたいのですが、沿岸貿易で毎年日本に供給してきた動力用石炭が30～40万トンでしたが、1989年には、公団と州・地方ソビエト執行委員会が協力して努力した結果、シベリア、極東の採炭企業が日本に供給した量は150万トンに及びました。

現在、我が公団は「オブルケメロウーゴリ」と日本のいくつかの会社とともにヴォストーチヌイ港の石炭積替え能力を150万トン拡張するための商談をしており、これがうまくいけば日本への動力用石炭供給量を近いうちに増大させることができます。

対日輸出では製材用の丸太が増え、また、ソ連の新商品もいくつか出ています。セルロース、泥炭、火山ガラスなどです。

指摘しなければならないのは、また、日本からの輸入の構成も大きな変化をみせていることです。製造技術関係の商品の割合が昨年は約 60%になっています。

1989年1年間で共和国の各州、各地方の鉄道・道路建設設備、ブルドーザーや万能4輪車、その他を含め、5,000万ドルが買い付けられました。

極東やシベリアの多くの地域では、「小松」のブルドーザーや、「日立」や「小松」のパワーシャベル、「加藤」のクレーンが広く用いられています。

「遠くの親戚より近くの他人」というのは日本のことわざですが、これは地域協力、日本の各県と我が共和国の極東諸地域とのパートナーシップが、ますます力をつけてきている状態をこの上なくよく表していると思います。

ロシア共和国の各地方・州の首脳陣と日本の各県とが直接的に、実務的なコンタクトを整えていくことによって、両国の貿易経済関係は、地域協力を強化していく上で新たな重要な段階に入ることになります。

ここで指摘しておきたいのですが、ハバロフスク地方、沿海地方、サハリン州、ケメロボ州と北海道との間にももっとも緊密な実務的關係が強化されています。地域関係発達において、積極的な役割を果たしているのは、ロシア共和国閣僚会議の招待で北海道の横路知事がソ連を何度も訪れていることです。

本年6月にも横路知事は三度目の訪ソをしましたが、その時北海道とロシア共和国とのパートナーシップを結ぶ協定が調印され、それは今後の協力の方向を定めるものです。

北海道との貿易経済協力の一環として、この5月には札幌をロシア共和国の貿易代表団が訪れました。日本側とともに今後の沿岸貿易の発展について話しあい、1990年の末には、沿岸貿易委員会を日本・ソビ

エト双方にそれぞれつくるという議定書を調印することが合意されました。

共和国対外貿易公団「ロスヴネシトルグ」は、北海道の「北海道コー  
ルインポートセンター」というソ連の動力用石炭を輸入する大手企業と  
いくつかの合弁会社を設立するための協力を続けていく意向を確認する  
議定書が調印されました。これには、北海道にホテルを作る合弁企業も含  
まれています。

喜ばしいことに、秋田県との交流も発展しています。秋田県では 1989  
年の 11 月、共和国対外貿易公団とヤクート自治共和国、沿海地方、イル  
クーツク、サハリン両州が共同で日ソ沿岸貿易 25 周年の展示会をひらき  
ました。

現在、沿岸貿易の対象となるソ連の商品の展示会が新潟県でも検討さ  
れており、県知事の側からもバックアップしていただいて、この展示会  
が開かれることを希望しています。それは、日本海沿岸地域とロシアの  
東部諸地域の貿易関係の強化を促すに違いありません。

関西地方との貿易経済協力も発展させていかなければなりません。

1989 年の 4 月には、ロシア共和国対外貿易公団と関西日ソ貿易  
団体連合会との間に調印された協定によって貿易経済協力の新たな発展  
可能性が見出され、また、その具体化が促進されるでしょう。

長い眼でみて、関西日ソ貿易団体連合会や北海道の貿易団体、また、  
日本の各県の企業との協力関係の展望を、新しい形の協力関係に結びつ  
けて考えています。それはまず合弁企業であります。生産協同組合をつ  
くることであります。新しい法律によって——というのは、この春、ソ  
連邦人民代議員大会で採択された所有権法のことですが——ソビエト連  
邦の国内に株式会社が作れるようになり、その会社は企業活動に必要な  
財産を所有することができます。採択されたこの所有権法にしたがって、  
今は外国の法人がソ連国内で生産企業その他の企業、建物、設備その  
他、経営活動を行っていくための資産を所有する権利を持っています。

企業活動の新しい分野で協力を発展させていく方向で中小の製造業の

方々との実務的関係を拡大していくつもりです。私たちの知るところでは、日本の多くの中小企業の活躍は一段とめざましく、日本の経済発展と技術革新で重要な地位を占めるようになってきています。そのような企業がもっともっと活動を強化して、ロシア連邦の中小企業との対外経済関係を発展させていただけたらと思います。日本の各企業が経験を積んで、通常の貿易のワクをはるかにこえた実務関係にまで乗り出してくださることを大歓迎したいと思います。

今回の第11回日ソ知事会議は、私どもにとりまして日本の各県とロシア共和国との地域間協力のさらなる発展の道を模索する重要なチャンネルであります。

新しい政治・経済機構がロシア連邦共和国で形成されていますが、地域間の関係も質的に新しい発展をみせています。それは、日本の各県の潜在能力とロシア共和国の東部地区との経済構造のドッキングにいたるのではないかと思います。

このような状況の中で、大分県の平松知事が、本年6月に共和国閣僚会議の招待で我が国を訪れ、大分県議会と共和国との友好パートナーシップを築いて下さったことは歓迎すべきことであります。また、知事さんが、ペレストロイカの発展に協力し、ソ連内の市場システムの形成を助け、農業や工業における日本の経験を伝えようとして下さっていること、その関係で、来年の5月には、農業とその隣接分野の専門家代表団をロシア共和国から大分県へ迎えて下さるとのご意向を大変ありがたく思っています。

このような視点から、その他の各県とも、協力関係を整えていく用意があります。それは、互恵の関係での貿易経済関係の拡大と産業技術革新の交流の発展、大小規模の製造分野で技術協力を結ぶことが目的であります。

これが、基本的には、日本の各県とロシア共和国との実務的協力発展への我々の態度なのです。

我々の理解では、現在極めて重要なことは、沿岸貿易や地域間の協力の発展の傾向を定着させることでもあります。私たちの協力関係をますます発展させていくための条件は揃っています。

この会議の討議を通じて、また個別の作業を通じて、今後の協力発展について、日本の知事さん方のご提案を注意深く検討し、ロシア共和国の各地域と日本の互恵の貿易経済交流強化に役立てて参りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## ② 大阪府知事 岸 昌

### 日ソ貿易・経済の協力について

#### ―地域間経済交流による地域経済活性化について―

はじめに

大阪府知事の岸でございます。公務の都合により午前中の会議に出席できなかったことを申し訳なく存じております。

本日、第11回日ソ知事会議がこのように盛大に開催されまして、ソ連の知事の皆様方にお会いできましたことを、心から喜んでおります。また、本日の第2議題「日ソ貿易・経済の協力について」の主報告を日本側を代表して行う機会をいただきましたことを光栄に存じております。

会議の開催にあたり、いままでご尽力されました両国の関係者の皆様方に、この場をお借りいたしまして深く感謝申し上げます。

私は、3年前になりますが、ロシア共和国閣僚会議のご招待により、ハバロフスク、イルクーツク、ノボシビルスク、モスクワ、レニングラードの各地を訪問させていただきました。

そのときの訪問は、ソ連が国を挙げて推進しておられます壮大な国家プロジェクトのシベリア開発に、大阪の企業が、特に大阪の中小企業が、いままで蓄積して参りました技術やノウハウを活かすことができないか、具体的に今後両国の経済交流が促進されるための“道づくり”ができないか、を探るための訪問でありました。

訪問の後、関西の企業で構成されました関西日ソ貿易団体連合会（関ソ貿）の第1回経済・貿易ミッションがソ連を訪問し、関西とソ連との具体的な経済交流の会談が行われるなど、それまでの大企業かあるいは限られた中小企業との貿易から、より幅広い交流が行われ、現在まで続く道づくりができましたことをこころから嬉しく思っております。

「ボーダーレス時代」における地域間経済交流による地域経済活性化  
現在、政治・経済の分野ばかりでなくあらゆる分野において、国際的な交流や融合が進んでおり、国籍や宗教、歴史、文化の違いといった見えざる壁を越えて、人、物、情報、そして心の交流が活発に行われる「ボーダーレス時代」を迎えております。

先月、アメリカのヒューストンで行われた第16回先進国首脳会議におきまして、「自由化し、より開放的、民主的かつ多元的なソ連社会を創出し、市場指向型経済へ移行するためにソ連で行われている努力を歓迎する」と言うペレストロイカ政策を支持する経済宣言が採択されました。この採択を受け、また、現在、ソ連で行われておりますいろいろな経済改革、政治改革により、これからソ連と日本との関係もいろいろな分野において変化することと思っております。改革についてまだまだ不透明な部分も多いのも事実ですし、両国の関係は、「北方領土問題」はじめ、これから解決していかなければならない問題も多いことと思っておりますが、全体的には、明るい方向に向かっているものと信じます。今後「国と国」、「地方と地方」、「人と人」などあらゆるレベルで日ソ間の交流がますます活発になっていくものと確信しております。

私は地域の振興、地域経済の活性化を図る責任は、地方自治体の肩に多くかかっていると考えております。現在我が国の地方自治体では、地域経済の活性化の方策のひとつとして、海外の地方自治体と友好提携を結び、積極的に経済交流を行っております。今後、ソ連におかれましても「ペレストロイカ」の中で地方への分権化が進み、各地域が地方の責任

において地域の活性化を図るため、外国との地方レベルの経済交流がより自由に行われるものと存じます。

私は、両国の経済交流の中における地方同士の積極的な経済交流に期待をかけたいと存じております。

このような時に、両国の今後の地方経済交流のあり方について、日ソ両国の知事が集まり意見交換することは、両国の経済交流の発展にたいへん有意義なものと思われまます。

この会議におきまして、皆様のご意見を伺い、今後、大阪府といたしましても地方自治体として両国の経済交流の促進のための施策を考え、積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

#### 大阪府の国際交流施策

大阪は「世界に開かれた国際都市」を目指し、現在 21 世紀への夢を託した数多くのビックプロジェクトに取り組んでおりますが、その一つ、我が国で初めての 24 時間運用可能の海上空港となる関西国際空港が、3 年後の開港に向け、着々と工事が進められております。私たちは、この空港が大阪と世界を結ぶ懸け橋となり、大阪が世界に開かれたビジネス国際都市として、世界各国の人々と大阪の企業との間で経済交流が活発に行われますことを楽しみにしております。

そのためには、私は、基本的には現在大阪経済が持っている力を活かし、そして伸ばしていくことが必要と考えております。そうすることが日本の中の大阪の役割であり、世界の中の大阪の役割であると思っております。

ソ連との経済交流におきましても、特に地理的に日本と近い地域において、住宅の中のじゅうたん、アルミサッシ、テレビなど生活関連製品や上下水道、都市交通、文化施設などの都市インフラづくりの分野で、大阪の企業が貢献できるのではないかと考えております。もちろんこれらの製品は、ソ連国内でも十分間に合うでしょうが、輸送の距離と距離



に起因するコストを考えねばなりません。ヨーロッパから運ぶのと、日本から運ぶのと距離の上でも、コストの上でも大きな差異があると思います。このコストの差をシベリアの開発、シベリア住民の生活の向上に振り向けるべきではないでしょうか。

今まで大阪の中小企業が培って参りました高い技術力がソ連の地域経済の発展のためにお役に立てるものと確信しております。いろいろと困難な問題もあり、これから解決しなければならないことも多いと思いますが、ひとつひとつ解決して、どういう分野の協力が可能か、具体的な提案を出しあいながら、交流を繰り返すことによって、問題解決の道は必ず見出されるに違いないと思っております。

現在、大阪府では国際経済交流促進のため、海外7か所に駐在員事務所を設置し、貿易や海外投資に関する情報収集や取り引きの斡旋、技術情報の交流を行っておりますのを始め、海外の経済ミッションの受け入れ、国際見本市の開催、国際経済イベントの開催、海外研修生の受け入れなど、地方自治体として大阪と海外企業・人が出会い、そしてビジネスへと結びつくためのコーディネーターとしての役割を果たし、国際経済交流の促進に貢献してまいりたいと考えております。

来月10日から4日間、大阪市、大阪商工会議所などと共催で、国際ビジネスのネットワークを広げるため「世界ビジネスコンベンション」を開催いたしますが、ソ連からも全ソ商工会議所、対日経済協力会の皆様を始め、100名を超えるご参加の申し込みをいただいております。ソ連各地の皆様が大阪の企業とのビジネスに深い関心をお持ちいただいておりますことを嬉しく思っております。このビジネスコンベンションでは、ソ連ビジネスセミナーを開催いたしますほか、大阪の企業との個別商談会などが行われ、両国の経済交流の促進に役立つものと期待しております。

また、大阪府は、地方自治体として企業が行う国際経済交流の支援を開始してから、今年でちょうど100年を迎えました。11月15日には21世紀に向う大阪の企業及び大阪府の国際経済活動の将来像をデザインし、

今後の大阪と世界の諸地域との国際経済交流促進のため、講演会、パネルディスカッションなどを行う「大阪府国際経済100周年事業」の開催を計画しております。このイベントにより、大阪府が積極的に展開しております国際経済交流施策につきまして、100年を振り返り、また新しい時代に向けての施策を考えるイベントにしたいと思っております。

今年の4月、ソ連閣僚会議経済改革委員会、財務省、全ソ商工会議所、国家計画委員会の皆様が、ペレストロイカの経済面の担い手である協同組合法による私営企業の振興を図るため、大阪の商工会議所、民間企業、銀行などの調査とともに、大阪府の中小企業振興施策の調査のためご来阪されました。大阪は、古くから中小企業を地域振興の活力の源として発展してまいりました街でございます。ソ連の地域経済の活性化のため、少しでも、私たちが取り組んでまいりました中小企業振興施策がご参考になれば幸いに存じます。これからも、お互いの地域の振興、地域経済の活性化のため、情報交換を続けて参りたいと存じます。

#### 国際交流と平和について

最後に国際交流と平和の問題について触れてみたいと思います。

ある地域をどのように発展させていくのか、そこに住む人々の福祉をどのように向上していけばよいのかを決める選択肢は無数にあり、それぞれ複雑にからみあっていると思います。しかし、地球上いかなる地域にありましても、どのような社会経済体制でありましても、共通の課題が一つあります。それは、その地域が平和であり、人々の安全と健康的な生活が守られなければならないということです。そしてこれらのことを達成するためには、その地域内や周辺地域の人々との相互理解と友好が深められることがまず肝要であります。従いまして、平和や国際交流の問題は、日々住民と密接な関係を持つ州や府県、市町村等の地方自治体にとって重要な関心事とならざるを得ないと存じます。

21世紀はアジア・太平洋の時代としばしば言われておりますが、この

地域に重要な役割を担う日本とソ連両国が、地方政府や企業、それにそれぞれの人々相互間で共に手を取り合って友好を深めていくことが、日ソ相互の発展のみならず、世界各地の発展と世界の恒久平和の達成のために大いに貢献するものと確信しております。

大阪府では、3年前に公表いたしました「大阪平和ビジョン」に基づき、「大阪府国際交流財団」や「大阪国際平和センター」を設けまして、大阪がいろいろな分野の国際交流の拠点となり、そして世界の平和に貢献する「世界平和の首都」となり得るよう、種々の施策の推進に積極的に取り組んでおります。

今後とも皆様方と力を合わせ、日本とソ連との友好関係がより確固たるものとなり、両国間の交流がますます活発になりますことを心から祈念して、私の報告を終わります。

きたる 26、27 日には、皆様方と大阪でお目にかかれましてを楽しみにいたしております。それから、午前中、レニングラード州へのお招きを頂いたわけでございますが、それにつきましても、大阪でじっくりと語り合わせて頂きたいと思っております。どうもありがとうございました。

## **(2) 意見発表**

### **① ブリヤート自治共和国最高会議議長**

**S. N. ブルダーエフ**

**ソ日貿易・経済の協力について**

尊敬する鈴木議長！

尊敬するみなさん！

同志のみなさん！

ソ連州議会の立法機関と執行機関議長と日本の知事、副知事との第 11 回会議の参加者のみなさまに、心からごあいさつ申し上げます。

第 10 回会議開催後 2 年が過ぎましたが、その間、多くの方がおっしゃいましたように、日本をふくむ世界の多くの国々では、わが国のペレス

トロイカと抜本的な政治改革、経済改革の実施に対する関心が高まっています。全人類的な価値と利益を第一とするわが国の政治改革は、親善関係強化と貿易・経済協力発展におけるソ日関係の改善を促進してくれます。

前回のモスクワでの会議の報告では、わたくしが代表しておりますブリヤート社会主義自治共和国について、また、その経済と文化の発展、日本との貿易経済および文化関係の特色について簡単にお話しました。満足の念をもって申し上げますが、過去2年間で、文化、貿易経済関係は著しく強化されました。この間、完全な自主性を与えられたブリヤート自治共和国の企業と団体は、積極的に外国との直接の関係を実現しようとしてまいりました。現在までは、主に公団《ダリイントルグ》を通して日本との貿易を行ってまいりました。そして、日本には原材料、木材および何種類かの野生の有用植物を輸出してまいりました。

しかし、日本との貿易は今のところまだ微々たるもので、約350万米ドルに過ぎません。これは、もちろん大した規模ではありませんし、双方がもつ可能性を実際に反映させているとは言えません。

ここ数年、ブリヤート自治共和国と北海道日ソ貿易協会および商社の《日ソ貿易》との間で貿易経済関係が盛んになってきました。

《日ソ貿易協会》とも好ましい業務関係ができました。

貿易・経済関係の発展によい影響を与えてくれたのが、1988年10月札幌で開催された第4回「極東会議」でした。

《日ソ貿易協会》との関係も拡大しつつあります。《日ソ貿易協会》は、1989年10月にソ連の商工会議所との共催で、「ソ連—日本—中国」の三か国会議をはじめ開催しました。

ブリヤート自治共和国の企業と団体は、日本の商社《丸紅》、《日商岩井》、《豊田通商》、《東京丸一》、《ニチメン》、《旭硝子》その他の会社と協力しております。

ブリヤート自治共和国と日本との間の合弁企業設立や、われわれの共和国が豊富にもっている鉱物資源の共同開発に関して、日本の実業界に

一連の具体的な提案があります。その中のいくつかを挙げてみましょう。光学ガラスと研磨板ガラス製造の合弁企業、上質ガラスの食器製造合弁企業（これはチェレムシャンカにある珪岩の産地を基地にします）。

ナラチンスクとエギチンスクのほたる石およびイリチルの繊維じゃもんアスベストの共同開発と採掘、アタルハン、チュルボンの石英砂岩の共同開発と採掘およびそれを原料にした光学ガラス、単晶、光学導光管などの製造、アイクチンの石灰岩の共同開発と採掘およびセメント工場の建設と経営があります。

壁材、上下水道用陶器、補強材その他の製品製造の合弁企業などもあります。

農業と農業用機械に関する協力とか、また、林業、そして水域における漁業の協力もあります。

保健健康の分野での協力に関する提案もあります。つまり、サナトリウム施設の建設、国際観光旅行などです。科学、文化、スポーツ、宗教でも日本との協力が可能で、それに関する提案もあります。

ブリヤート自治共和国の対外経済活動で最も有望なのは、国際観光旅行だと考えます。そのために《バイカルツーリスト》という公団をつくりました。現在は国際商業銀行《バイカルバンク》の設立を準備中です。この銀行を創設することにより、国際観光旅行発展のために外国からの投資を受けることが可能になると考えております。

バイカル湖の生態学的な状態には、われわれの共和国や国だけではなく、世界の国々が憂慮しております。ですから、バイカル湖とその水域の自然保護対策に外国の企業にも参加してもらい投資をあおぐことを奨励しています。ちなみに、バイカル湖の面積の3分の2以上は、ブリヤートの土地に属しています。

世界に蓄積されている経験にならって、われわれも自治共和国領内に経済特区または合弁企業特区のステータスをあたえる問題を検討する予定です。

日本側には、ソ連の極東地域をアジア太平洋地域統合の全体的なプロセスに組み入れることに関して具体的な提案があるとうかがっています。

文化協力の活発化、とくに貿易経済協力の活発化の過程の現在では、まだ多くの問題があるのは当然です。われわれの側には、合弁企業設立の法的な基盤が欠けております。インフラストラクチャーが整っていないことにも問題があります。ルーブルに交換性がないこと、その他の多くの問題が極東地域発展の長期計画の実施や、積極的な協力の障害となっており、最も発展したみなさまのお国をはじめとするアジア太平洋地域の諸国がこのプロセスに参加することを妨げております。

経営面で日本と直接の関係をもつことにより、原料を主とした輸出から徐々に離れていくことを目指しております。双方がもっている科学・技術の潜在力を完全に利用することです。したがって、われわれの対外貿易関係のコンセプト、日本との貿易経済関係発展に関する具体的な提案、新しくできる規範が、現代における互惠の貿易経済協力のための条件をつくってくれるであらう。

1990年7月10日から13日にかけて、ブリヤート自治共和国の首都ウラン・ウデを、高橋庄左衛門氏を団長とする山形市の代表団が、姉妹都市締結のために訪れました。

このように、われわれの関係は次第に拡大し発展しつつあり、それによって両国民の信頼感が深まり、ひいては世界の平和に貢献することになります。

最後に、日本の知事の代表のみなさまとソ連の立法機関・執行機関議長の代表のみなさまに、ご健康と、善隣関係、互惠の協力にかかわるお仕事の成功、そして両国民の利益に疑いもなく応えてくれるソ日両国の相互理解が深まることを祈ります。

ご清聴ありがとうございました。

## ② 京都府知事 荒巻 禎一

## 京都府舞鶴港における日ソ貿易の振興について

尊敬する議長さん、尊敬するご来賓の皆さん、ご列席の皆さん。

私は京都府知事の荒巻禎一でございます。

このたび、第11回日ソ知事会議に参加することができ、しかも発言の機会を得ましたことは、まことに光栄であり、大きな喜びであります。

本会議は、第11回と回数を重ねましたが、この間、本会議発展のためご尽力賜りました日ソ両国の諸先輩の方々並びに関係の皆様方のご功績とご労苦に対し、心から敬意の念と感謝の意を表する次第であります。さらに、本会議が、日ソ両国の友好親善及び貿易・経済の発展に、より一層大きな役割を果たすよう期待するものであります。

世界は今、歴史的な変化のただ中にあります。その焦点にあるのが東欧諸国であり、また、貴国・ソ連邦であります。

貴国においては、新しい世紀に向けて、民主化、自由化、市場経済の導入等、新しい政治経済体制の建設が大胆かつ積極的に進められております。

ペレストロイカは、21世紀に向けた新しいソ連社会を築き上げるための壮大な試みであります。この新しい道程を勇敢に歩み始めたソ連邦の国民の皆さんに敬意を表するとともに、その成功を心からお祈りいたします。

激動する世界の中で、日本は、国際社会においてその経済力にふさわしい役割と、世界の平和と発展に貢献していく上での理念が求められております。

京都府は東京と並ぶ日本の「顔」であり、我が国の歴史・文化の中心として、また、世界的な学術研究の蓄積をもつ学問の都として、大きな役割が期待されております。こうした面で、世界の中で京都府ならではの役割を發揮していくことは京都府の責務であり、ひいては、日本の国際的役割に寄与するものと存じます。

京都府の地形は、北から南に長い形をしており、北部の日本海側は変化に富むリアス式海岸が続き、それが天然の良港や景勝地を形づくっています。特に日本海にあります我が舞鶴港は自然条件に恵まれた天然の

良港であり、ソ連をはじめ対岸諸国と至近距離にあるところから、近畿経済圏北部の対岸貿易拠点港として重要な役割を果たしております。

ちょうど2年前の、1988年8月にモスクワで開催されました第10回日ソ知事会議におきまして、私も出席いたしまして（チェレバノフ団長さんをはじめ、当時の懐しい顔も今日拝見することができましたが）その時私は「舞鶴港における日ソ貿易の振興について」発言させていただきました。

そこでは、舞鶴港が日本海をはさんでソ連と向い合っているという距離的、時間的なメリット及び対ソ貿易の実績等を強調し、舞鶴港の利用促進並びにコンテナ船の配船等の協力要請をお願いいたしました。

特に、舞鶴とナホトカが約30年前、1961年に、ソ連との間では日本で最初の姉妹都市盟約を締結したことが大いに話題となり、なおさら舞鶴というものが強くアピールできたと実感いたしました。そして来年は、姉妹都市盟約締結30周年という記念すべき年を迎えることになるわけであります。そのほか、ロシア共和国のビノグラードフ外相や（本日もご出席いただいておりますが）ロシア共和国外国貿易公団のペロツェルコフスキー総裁など、貿易経済関係機関の多くの方々に熱心にお話を聞いていただきました。

また、舞鶴市の町井市長とともに直接、担当の海運省のチホノフ第一次官のところへも参り、舞鶴港の利用促進を強く要請いたしました。

帰国後、舞鶴港の貿易を振興するためにはわれわれ自身の体制の確立を図ることが肝要であると考えまして、昨年5月に、京都府、舞鶴市、地元業界が一体となり、新たに「舞鶴港振興会」を設立いたしました。私が会長を務め、既存航路の活性化や新規航路の開設、貿易貨物の集荷要請など、積極的な活動を展開しているところであります。

顧みますと、舞鶴港にとって昨年3月29日はまさに新しい時代の幕開けとなった日でありました。この日、舞鶴港の第2ふ頭に、コンテナ取扱いが可能な多目的クレーンが竣工したのにあわせて、トランス・シベ



リア・コンテナ・サービス航路、いわゆる TSCS 航路の第 1 船「おうろら丸」が舞鶴港に入港し、舞鶴とポストーチヌイの間に念願のコンテナ輸送が実現したのであります。以来、この TSCS 航路は、関係各位のご尽力を賜り、今日まで 14 船が入港しており、ほぼ月 1 便の寄港が定着しつつあります。1975 年にスタートしたソ連邦ワニノ港と舞鶴港間の定期配船の活性化とともに、今後、この TSCS 航路の定着、活性化を図り、定期航路が実現することを期待いたしております。

また、ポストチヌイ港と舞鶴港の港湾関係者の交流も盛んで、経済関係の相互の発展について真剣な協議が行われております。私自身も、機会あるごとに貴国の貿易・経済関係者の方々に対し、舞鶴港の利用促進について協力をお願いしてきております。今年 4 月 26 日には、来日中のポリメル海運大臣を京都府の公館にお招きし、舞鶴港における日ソ貿易の振興について懇談をさせていただきました。

また、それと前後して、ヤコブレフ政治局員、そしてソロビヨフ前駐日ソ連大使が京都を訪れられました時も、この話をして、ご協力かたお願いをいたしました。

現在、舞鶴港の港湾整備も着々と進み、一方、舞鶴港と京阪神地域とを直結する京都縦貫自動車道や近畿自動車道舞鶴線の整備も急ピッチで進められまして、舞鶴港は飛躍的に利便性を増しつつあります。

こうしたことから、舞鶴港の今年上半期（1990 年 1 月～6 月）の貿易実績は、輸出入総額が 206 億 4,300 万円で、前年同期に比べ 45 パーセントの大幅な増加をみております。200 億円台の大台に乗ったのは、5 年ぶりのことでもあります。これは、TSCS 航路のコンテナ貿易の順調な伸びや、今年 3 月開設された韓国釜山定期航路のコンテナ貨物が増加し、輸出入品目が多様化したことによるものであります。

我が国は、資源の多くを海外に依存し、隣国であるソ連邦からは原材料が輸入され、一方我が国からは各種製品を中心に輸出が行われ、日ソ両国の経済関係は密接かつ不可分の関係にあります。

近年、ソ連邦極東・東シベリアは、ソ連経済において重要性が高まりつつある貿易・水産・海運などの発展に有利な条件を備えている地域として重視されるようになってきております。

21世紀はアジア・太平洋地域の時代といわれるほど、この地域は今、世界中で最もダイナミックな発展を続けており、世界の政治・経済秩序にとってますます大きな存在となってきております。

日ソ両国の関係は、将来、経済、科学技術、文化、その他あらゆる分野で発展をみせ、例えば、シベリア・極東地域は、ソ連の資源・労働力と日本の資本・技術の連携により、アジア・太平洋の経済発展の牽引車の存在になることであらうでしょう。

将来を展望しつつ、日ソ両国がともに手をつなぎ、日本海を平和と友情の海として、ますますの繁栄を希求することが、私たちに課せられた任務であると存じます。

日ソ両国の発展を心からお祈りいたし、また、明後日京都への皆様のご来訪を心から歓迎し、お待ちしながら、私の発言を終わります。ご清聴ありがとうございました。

### ③ イルクーツク州執行委員会議長

#### Y. A. ノジョフ

鈴木議長さん、チェレパノフさん、この会議の参加者の皆さん。

前回のモスクワでの会議から2年たちましたが、この2年間に、世界に大きな変化が起こりました。それは、ソ連の内政、外交の大きな変化が原因になっていることが多いのです。

これは、東と西との、つまりソ連とアメリカ、あるいはソ連と中国、東欧の軍事関係の変化であります。すでに東西ドイツの統一が現実的になってきています。我が国の経済の変革、そして東ヨーロッパ諸国の変革は、世界の力の均衡の新たな源泉となっております。

ここで申し上げなければならないのは、我が国の経済関係であります。

これはやはり、今まで申し上げたような変化が影響を与えており、また科学技術、企業、社会団体の交流にも影響を与えております。

イルクーツク州では、この2年間に非常に多くの契約が結ばれました。また、今後の活動についてのいくつもの協定も結ばれました。それは、生産関係にも関係を持っています。我々の対外経済関係は閉鎖的なものであってはならないのであって、外交的なレベルだけにとどまってはならないのです。

この滞っている日ソの貿易関係をもっと発展させるためには、必要なことがあります。つまり、国際社会において、隔離されていた、閉鎖されていた所から出て行くということでもあります。ここで指摘したいのですが、このような難しさの原因は、日本側にもソ連側にもあったと思いますが、この問題は確かにあるのであります。そしてそれが、我々の相互関係の発展に邪魔になっているのです。私たちの間には、歴史関係、そして地理的關係があり、それらは、今後の関係改善のために再検討を要するものであります。

私たちが皆さんに注意して見て頂きたいと思うのは、日ソ関係の特殊な状態についてであります。ここには、関係改善を妨げている要因がほかにもあるのではないかとということです。

戦後数十年の間に、日本は経済力を世界的なレベルにまで高めました。それは、科学技術においても、生産力においてもであります。そして品質の良さが、日本の製品に対して世界中での国際競争力を与えました。そして多くの国々との貿易で黒字を出しております。こういうことは、貿易相手国に自己防衛的な反応を引き起こしております。そして日本の輸出入に関して日本側からの譲歩が求められております。その結果、いくつかの相手国との貿易額が減ってきております。その上にココムによる貿易の規制があります。日本が輸出する製品の額が下っております。また、原料、第一次製品の加工が減り、アルミニウムの生産が減って

います。このような条件の下で、経済のあり方が決まってきたのです。

日本がどのような方向に進むかということは日本みずからが定めることではありませんが、このことに関して私は申し上げたいことがあります。仏教にこういう言い方があります。すなわち、現在の中に過去の関係が、因果が働いている、ということでもあります。つまりかつての経済活動のやり方が現在の状況を引き起こしているのです。

現在、アジア太平洋地域の諸国は激しく発展しており、またヨーロッパの政治状況も変わっておりますし、ドイツの統合も行われており、そしてアメリカも軍事力を減らしはじめております。

このような時に、莫大な資源を持ち、広大な領土を擁している国を隣人として持ちながら、このような市場との善隣関係を利用しないという法はありません。

我がソビエトにおいても、必ずしも都合のよい環境をつくるための条件が整っているとは思いませんが、地方の行政機関は、いくつかの権限を受けとっています。しかしまだまだ中央集権制は残っております。

また市場経済をつくるためには、企業を国営でなくすることが必要ですし、銀行制度を改革することも必要であります。このようなプロセスは必ず時間がかかるものであります。そしてそれらは、均衡のとれた形で進められなければなりません。各地域の行政機関や企業は、それぞれの立場を主張し始めています。ソ連邦最高会議での議論の進行状況を眺めますと、我々はかなりのものを獲得してきたと思います。

しかし、政治的な状況は必ずしも安定しておりません。これは、考え方が固定観念に縛られている、ということにも左右されております。我々も、そして我々の隣人である日本の側も、固定観念から抜けきれていないのではないのでしょうか。

しかし新しい力の均衡の下で、両国の指導者たちが両国間の関係を改善するため正しい選択をしてくれることを私は望んでおりますし、また、ゴルバチョフ大統領の日本訪問が実り多いものとなることを願っております。

ありとあらゆる製品に対する貿易制限を撤廃し、また、科学技術交流における制限を最低限まで抑え、そして投資、とくに長期の投資、ローンの供与を保障するような趣旨を共同コミュニケの中に入れて貰いたいと思います。

イルクーツク州について若干申し上げたいと思います。イルクーツク州は非常に豊かな土地であります。面積は75万平方キロであります。そして木材資源が非常に豊富であります。

現在、貿易能力という点では、イルクーツク州は、東シベリア及びソ連極東地域の半分以上を占めております。そして急速に発展しているそれぞれの自治体や企業の力を考えますと、お互いに合意に達するのに十分な条件が整っていると思います。

両国の相互関係について申し上げますと、文化的な交流はお互いをよく知り合うために大きな貢献をするものであります。

中西知事がすでにおっしゃいましたが、我々が協力し合っている事業について中西さんが促進して下さっていること、尽力して下さっていることに、心からお礼申し上げたいと思います。

イルクーツクの大学では日本語の教授が始まっております。

この会議のあと私は石川県に参りまして話を続けるつもりであります。

日ソ貿易協会そして日本の色々な企業の皆さんとも私たちは成果のある有効な交渉を続けておりますし、この面でも我々の協力関係を大きく広げて行くことができると思います。そのためには、我々の木材資源を日本のために利用し、経済力を活用することを提案したいと思います。

どうもご清聴ありがとうございました。

#### ④ 大分県知事 平松 守彦

##### ロシア共和国を訪問して

大分県知事の平松であります。本日は日ソ知事会議に参加することができまして、発言の機会をいただきましたことを大変嬉しく思っております。

私は、先程ベロツェルコフスキー貿易公団総裁のお話にありましたように、今年6月3日から7日間、ロシア共和国閣僚会議の招待でソ連を訪問しまして、大分県の地域づくり、地域活性化、一村一品運動についてお話をいたしましたわけでありまして。

その際とくにコロコロフ外務次官並びにイワノフ上席参事官、マカロフ儀典長さんにも大変お世話になりまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

今皆さんのお手元に資料をお配りしてありますが、これはロシア語で書いた一村一品の資料でありますので、それをご覧いただきたいと思っております。

この一番うしろに大分県の場所を書いておりますが、大分県は飛行機で東京から1時間半かかるところでありまして、東京から比較的離れている場所であります。

人口も125万人で、それほど大きな県ではありません。県民所得もそんなに高い県ではありません。また、今、農業問題や人口の流出といったきびしい問題もあり、大分県をいかに活性化するか、ということは私の大きな務でもあります。本日の知事会議にお集まりの皆さん方も、恐らく地域の活性化のために努力されていると思っております。

そこで私は、この一村一品運動についての原則をお話したいと思っております。

私は1979年に知事になって県内を回った時に、「自分の所には道路がない」とか、「予算がない」とか、そういう消極的な話が大変多かったのであります。

そこで、ただ嘆いてばかりいても仕方がない。地域の顔となるような特産品を作ろうではないか。こういう提唱をしたのがこの運動の原点であります。

この運動には三つの原則がありまして、第一番目は、単なる観光地の土産品などではなく、「大分県の地域のおいがるもので、世界に通用するものをつくろう」、「ローカルにしてグローバルなものをつくろ

う」という運動であります。たとえば、このパンフレットにも、写真にも出ておりますが、大分県の椎茸は大分県の特産品ですが生産シェアは日本で24%、また大分県の車エビは一つの漁協では日本一のシェア、またハウスで作ったミカンもいま29億円位、というように、それぞれ地域の産物であってグローバルにも評価されるものが大分育って参りました。皆さん方、もしご関心があれば、あとでいろいろお見せいたします。

第2番目の原則は、「自主自立、創意工夫」ということです。何を一村一品運動にするかということは、それぞれの地域の住民のイニシアティブで決める。県が指令をして、「お前はこういうものを作れ」と言って県が指導するものではありません。自分たちの地域のもので何を一村一品にするかは自分たちのイニシアティブで決める。これが第2番目の原則であります。

第3番目の原則は、「人づくり」であります。やはりそれぞれの地域が活性化するには、良いリーダーが要る、ということでもありますから、物づくりを通じて人づくり、ということで、大分県では「豊<sup>とよ</sup>の国づくり塾」というのをづくり、いま全県下12ブロックで30人の塾生を入れて勉強しております。現在700名の卒業者が出て、塾長はこの私がつとめております。

この運動は現在11年経ち、中国、フランス、アメリカ、イギリスなど海外のいろいろな地域と交流をしておりますし、また国内でも、北海道の横路知事さんはじめ、いろいろな地域と交流をしております。

今回ソ連を訪問したのは、昨年大阪のソ連総領事館のイリヤシェンコ副領事さんが大分県の一村一品運動について学びたいと来訪され、その内容がソ連の新聞に「大分県の奇蹟」として大きく報道されました。また、イズベスチヤ紙においても、大分の地域活性化は人づくりだ、という紹介がありました。また今年の2月に、ソロビヨフ駐日大使が大分に実情を視察に来られまして、是非ソ連で地域経営について勉強したいので講演をしてくれ、というお話があり、ソ連に参ったわけであります。

ソ連に参りまして、今日はレニングラード州のヤーロフ知事さんもおられますが、レニングラードの郊外の「レト」という国営農場を訪問いたしました。そこには大変立派なガラスの温室があり、トマトやキュウリは日本のものと同じような立派なものを作っておりましたが、その中で、従業員 1 人当たりの月収が 300 ルーブルでソ連の中では収入の多い方だそうですが、生産性は大分県の農家の 2 分の 1 程度でありました。その際、大分県からも農家の青年も連れて行きまして、その青年が、「大分県では 600 平方メートルで年収 6,000 万円のシメジ（キノコ類）の栽培をしている」という話をしましたら、会場の農家の方がたがどよめいて参りました。「600 平米で 6,000 万円の生産をあげるというのはソ連では考えられない。これは翻訳の間違いではないか」と言って通訳に質問がありました。「60 万平米の間違いではないか」という質問であります。しかし「それは間違いではない」と。大分県の場合、地価が高いですから、600 平米の土地で 6,000 万円の生産額があがっているということでもあります。そこで「そのノウハウを是非勉強したい」ということで、レニングラードのライサという農場長さんが私と握手をして、「この青年と明日からでも合弁会社をやりたい。この握手はその調印である。」という話をしたのであります。

しかし、いきなり合弁をやってもすぐ生産高があがるものではありません。私はライサ女史に「まず大分県にきて、大分の青年がいかに一生懸命働いているか。いかにイニシャティブを以て働いているか。まずそういう勉強をお互いにしましょう。まずお互いが勉強し合うことが大切だ。」と申しあげたのであります。

またアバルキン副首相さんも「これからのソ連の経済には、日本が勉強の対象として一番良い。アメリカの自由主義経済よりも、日本は官民合同で計画経済を取り入れながら自由主義経済もやっている。」ということで、日本を勉強したい、という話もありました。

また、ビリュコフ軽工業大臣からも日本企業との合弁の話がありましたし、



レニングラードのホドイリョフ市長さんから「都市開発、住宅建設などにも大きな課題がある。とくに住宅は業者の能力向上が必要で、合弁会社を是非作りたい。」という話もありましたので、これからは、ソ連の各地域と大分県との間で交流をして行きたい、ということで、コロコフ外務次官もおられました。大分県とロシア共和国とで「友好と協力に関する声明」のサインをそこでいたしました。これからは地域と地域とが交流をして行こう、ということをやったわけでありまして。

この際、私はとくに三つの提案をいたしたい。

第一に、これからは、ロシア共和国のある特定地域にフリーゾーンというのを設ける（たとえばレニングラード州ではブィボルグとか黒海沿岸のソチ〔大分県と交流しようという話がありますが〕）。そして、その地域と大分県や各県とが交流して、それぞれのフリーゾーンの中で実効が上がるのが大切であります。そこで農業などの生産性を上げるという実効をあげてみせ、ソ連の農業者や中小企業家も実際に見て勉強していく。そういう意味で、それぞれの地域におけるフリーゾーンと各県とが交流するというやり方は一つの方法ではないか。大分県は、これからそういう方向で、ロシア共和国のほうといろいろ話をしたいと考えております。

第2番目は環境問題であります。日本もエネルギーを非常に多く使っている国であり、環境問題が大変大きな問題であります。各県とも公害問題では非常な努力をしております。ソ連も、これからバイカル湖の問題や石油その他を消費するための公害問題が大きくなりますので、公害問題についての州知事さんと各県知事との交流も、また対策についての交流も、していく必要があるのではないかと。

第3番目は、さきほどもお話がありましたが、ロシア共和国が主権を強化して、ソ連政府から独立してやって行きたい、と言っております。日本においても、中央集権が大変強くて、我々は中央政府に対していろいろな権限を持って自主独立して行きたいと考えて頑張っておりますが、

その点では、エリツインさんのロシア共和国の精神は学ぶべきものがあると、私は思っております。これからは、今お集まりの各共和国の皆さん方と協力して、それぞれの地方・地域が自主性と権限を高め、自主独立のために頑張る、ということをお互いの共通認識として努力して行きたい、と考えているわけです。

以上三つの提案をして私の話を終わります。ありがとうございました。

< コーヒー・ブレイク > ( レストラン富士

14 : 50 ~ 15 : 10 )

### ③ 関連発言

#### ① 沿海地方執行委員会議長

##### V. S. クズネツォフ

鈴木議長さんありがとうございます。

皆さん、このすばらしい会議に何とか間に合って参加できたことを大変嬉しく思います。実はエリツイン氏が沿海地方に来ておられたので、同氏を見送ってすぐこちらへ参りました。

今回の会議は、今後の日ソ関係の発展に非常に大きな影響を持つものであると考えます。

エリツイン氏は沿海地方で演説を行いました。その際何度も何度も強調したことは、日本は最も将来性の大きい、そして極東地方にとって最も有望なパートナーの一つである、ということでもあります。そしてこの協力関係の将来性はとても評価しきれない位大きいものである、とっておりました。

私は同氏をサハリンに送り出してから（氏はさらにロシア共和国の中を方々視察して歩いたわけですが）、私は日ソ知事会議に出席のため日本を訪れる予定であることを同氏に知らせました。そのときエリツイン氏はこれに非常な興味を示しまして、できるだけこまかく、そして広い

範囲にわたって日ソ関係、とくに極東における経済協力について話し合ってくるように要請されました。

もちろん皆様ご存知と思いますが、ロシア共和国最高会議の7月14日の会議では、政令が出まして、それによって、その共和国内の各州や地方が、自由に企業活動ができるという経済特区をつくることができるようになりました。その中には沿海地方も入っております。

今わが国では、それに向けての書類の準備が進んでおります。その内容については、まず州の会議で話し合い、ついで共和国のレベルで検討される予定です。

ロシア共和国最高会議の会議、そしてロシアの人民代議員大会では、次のような予定が立てられております。すなわち、ロシア共和国で新しい条件を作り出さなければなりません。新しい経済構造に応じた42の法案を検討しなければなりません。その中で最も重要な法案は、経済特区を設置する法案であります。その中には、ナホトカ市も対象とされております。

エリツィン氏はナホトカ市を訪れ、ナホトカ市の行政について詳しく視察をしました。その時に、日本のビジネスマン（企業）の方から非常に多くの提案が来ていることを聞いて満足しております。

ですから、間もなく開かれる最高会議では、そしてロシア共和国閣僚会議では、沿海地方における、そしてナホトカを含む地区における経済特区に関する法案が検討されると思います。

この法案、そして政令の中心的内容としては、沿海地方に対して市場経済のメカニズムが十分発揮できるようなステータスを与えるということが見込まれております。

この文書で見込まれておりますのは、沿海地方の地方自治によって定められた一定の地域を経済特区として指定することです。そして最初のかような経済特区は、もちろんナホトカであります。そのほかの都市に比べて、ナホトカは、すでに長く準備を続けておりますし、他に比べれば準備がととのっているからであります。

それからまた、エリツィン氏と次のような問題を検討いたしました。ソビエトの地方の議会に、土地だけでなく、天然資源を所有する権利を与えるということです。つまり鉱物資源、漁業資源その他の資源であります。

また、課税についても特典をみとめることを検討いたしました。それによって、経済特区は、一定の期間（もしかすると10年位）ロシア共和国に納める税金を完全に免除されることが検討されます。すなわち、インフラストラクチャーがととのうまで、そしてそのインフラストラクチャーが色々な経済活動に合致した機能を発揮できるようになるまでは、課税から完全に免除される、という問題であります。

また、外貨及び外貨の特典が検討されます。それは、外貨を得る企業にその外貨を還元させるという問題です。もちろんエリツィン氏と意見が完全に一致したわけではありません。私どもは、経済特区の工場については、その企業が10年間に稼ぎ出した外貨を100%自分の所に残しておくべきだと申したのですが、エリツィンさんとしては、責任者として、それでは余りにも自由が多すぎると考えたわけです。そして外貨を60%位工場に残しておくようにしたらどうか、と提案されました。

その他に、とくに軍事・軍隊との関係についても検討いたしました。沿海地方には、ご存知のように、随分多くの軍が存在しているわけですが、その問題も検討いたしました。

それからまた、ウラジオストックを開放する問題があります。この問題は、経済特区の活動を十分にするために大きな意味があるわけです。そして、ウラジオストックは事業、金融、文化の中心地になるべきだ、という点で意見が一致いたしました。

そして最も広い国際社会に開放されなければならない、という点でも意見が一致いたしました。そしてそこには、国際空港を設けること、銀行、会社、主な国々の領事館などをそこに設けるという問題があります。この問題では理解を得まして、エリツィンさんは完全に私どもを支持して下さいと申しておられました。

そしてこの問題はまた、近い将来検討されるでしょう。といたしますのは、この問題は非常に緊急を要し、非常に重要だからであります。

それから、最後にちょっと申したいんですが、ご清聴ありがとうございました、と申し上げたいわけであります。

## ② ヤクート自治共和国閣僚会議議長

### V. P. シャムシン

日ソ知事会議の出席者の皆様に心からご挨拶申し上げます。

日本とヤクート自治共和国との経済関係は、20世紀が始まる前から深い歴史を持っております。しかし現代においても、ヤクート自治共和国はパイオニアの一つであります。

1970年代のなかばには、ヤクート自治共和国は、日本の参加を得たコンペンセーション・ベースで、大規模な南ヤクートの採炭コンプレックスを建設しました。

このプロジェクトは、中断した時期もありますし、お互いに腹を立て合った時期もありました。不満を持つこともありました。が、とにかく、この事業は実行されたのであります。そして現在は日本に毎年500万トンのコークス炭を供給しています。石炭を産出するネリユングリやダイヤモンドを採掘しているミールヌイでは、日本製の掘削機械、採石用のダンプカー、ブルドーザー等が活躍しております。これらは、小松製作所や加藤製作所の機械であります。嬉しいことに、日本の技術者の方々も、日本の機械も、我々の所の厳しい気候—マイナス55°にまでなる寒さの条件—になれてくれ、また鉱山の地質的な条件にもなれてくれました。鉱山の深さは450mに達するものです。

我々の関係は、いつも曇りがなかったというわけではありません。しかし、まだまだ協力関係は足りないのでありまして、もっと大きな成果をあげたいと思っております。

自己批判的に反省して申し上げますと、我々の方が責任が大きいので

すが、中央の指導・監督がまだまだ強く残っていますし、地域の自主性も積極性も欠けております。国際交流において、十分な、責任ある態度をとらなかった、ということも我々の罪であります。

しかし、日本側も、余りにも長い間静観してきたと思います。これはある程度理解できることではありますが、我々の地方は生産のためのインフラストラクチャーが十分に発展しておりませんし、輸送の問題はとくに重要です。また社会的なインフラストラクチャーも整備が遅れております。実際、ヤクート地方は長い間にわたって天然資源の採掘と原料供給の地域でありました。ですから、この状態から抜け出すためには、時間と資金が必要なのです。

私たちは投資のための投資をお願いする、というのではありません。ただ、ヤクートの変革と経済発展のために、ローンの供与を提案しているのであります。普通の卵を生む鶏であっても、成長の過程でひな鳥の時期というものがあるのです。

私は、日本の国家機関や実業界の皆さんが、より大胆に、決断力をもって、ヤクートとの協力関係を発展させて下さるようお願いしたいと思います。そして鉱山関係だけでなく、調和のある形で生産を発展させることができるようご協力をお願いしたいのです。日ソ双方がそれぞれ利益を得ることができます。長期間の協力関係をつくることができますと思います。

ヤクートをアジア・太平洋地域と切り離して考えることはできません。我々は、経済関係を持つのは、日本とばかりでなく、アメリカや韓国や中国やその他の国々とも関係を結んで参りたいと考えています。このような協力が、双方にとって有益で、安定していて、長期的なものになることを願っております。

ヤクートは豊かな地方、否、国であります。「国」というのは間違いではありません。その広さはフランスの6倍もあります。そして、ここでは、ダイヤモンド、金、錫、上質の石炭、雲母、アンチモン、木材資

源、天然ガス等が豊かです。協力の有効性は間違いない、と断言することができます。日本の皆さんはこのすばらしい資源を活用すべきであります。

今回の会議が滞りなく運営されていることについて、主催者の皆さんに心からお礼を申し上げますとともに、皆さんのご健康をお祈りして、私のご挨拶に代えさせていただきます。

### ③ チュメニ州執行委員会議長

#### L. Y. ラケツキー

尊敬する議長、来賓の皆様、同僚の皆様。

チュメニ州は、石油とガスの採掘において、ソ連最大の地域であります。非常に短い期間の間に、チュメニ州では年間 3,400 万トン～3,500 万トンの石油と 5,500 億立方メートルのガスを採掘するようになりました。州の面積は 200 万平方キロであります。森林資源も豊かでありまして、農業も発達しております。南部には大きな農業地帯がひろがっております。

チュメニ州に住む人々は、日本のスペシャリストの方々に非常な好感を抱いております。この日本の方々は、ガス精製工場の建設のため見えた方々で、ニジノバルトフスクとかスルグートで働いておられました。

「小松」、「加藤」の機械は非常に耐久性に富み、マイナス 45～50 度でも立派に動いております。チュメニ州の石油関係の人々の家庭には、非常に多くの日本の家電製品があります。

現在、石油とガスの開発が新しい段階を迎えております。世論を考えると、住民の間では、ここ数年の間に、化学製品を製造するために石油、ガスの採掘を続けなければならない、という気運が高まっております。石油、ガス精製工場を建設することによって、石油、ガスの濃度を下げるようなエコロジ的にもよい環境を作り出すことができます。

ソビエトの人々は、日本の実業界が石油化学産業に加わって下さるこ

度を下げるとなると、エコロジック的にもよい環境を作り出すことができます。ドイツ、アメリカ合衆国、そして日本との話し合いはのびのびになっております。ここでは非常に大きな合弁企業設立の可能性がございます。私どもは完全にそれを支持しております。

チュメニ州はまだ日本との姉妹都市がないのですが、将来はそれができるものと信じております。たとえばウレンゴイ、スルグート、ラドゥージュヌイ、トボリスク、ニジネバルトフスク等の都市はそういう関係を持ちたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。皆様のご繁栄をお祈りいたします。

#### ④ 福島県知事 佐藤 栄佐久

議長さん、それから、ソ連からお出での議長さんはじめご来賓の方々。

こういう機会を与えて頂きましてありがとうございます。午前中の会議に出席できませんでしたので、とくに福島県と貴国との関係について申し上げ、私の意見を申し上げたいと思います。

福島県は、日ソ親善協会を通しまして、ここ10年来、ウズベク共和国と交流を進めておまして、たとえば去年は、ウズベク共和国保健省副大臣とウズベク教育大学学長が福島県にお出で下さり、福島県立医科大学におきまして医療関係の交流をいたしました。

また今月（今年8月ですが）、ウズベク共和国対外文化交流団体連合会派遣の少年少女親善交流団が参りまして、ホームステイ等を通して県内各地で交流を深めたところであります。

このような地方レベルの交流を重ねて行くことが、日ソ両国の親善や経済協力を深める上で有意義なことであると認識しております。

福島県の小名浜港や相馬港には、ソ連から木材、石炭等が入荷しており、本県からも、貴国に対し、化学工業製品や機械器具等を輸出しておりますが、1995年には、本県の太平洋側と新潟県を結ぶ高速自動車国道が開通する予定となっておりますので、ソ連との時間的距離がさら



に短くなります。

福島県は、はじめてこの会議に出席させて頂いたわけですが、これから親善交流や経済交流がますます盛んになるものと期待しております。

以上です。

## 8 共同声明協議

鈴木会長から、ここで、この会議の締め括りとして、共同声明の検討に入りたい旨発言。予め両団長が相談した案文を、事務局（イワノフ上級参事官及び砂子田事務総長）に朗読させた。

賛否をはかったところ、異議なく拍手を以て賛成されたのでこれをこの会議の共同声明として採択することとする旨表明。（会議終了後引き続いてこの場で両代表が調印することとなった。）

### 第 11 回日ソ知事会議共同声明

1990年8月21日から31日までの間、全国知事会の招待でソビエト連邦地方、州および自治共和国の指導者代表団（以下、「ソ連知事代表団」）は、I. M. チェレパノフ・モスクワ州ソビエト議長を団長として日本を訪問した。

一行は、日本滞在中第11回日ソ知事会議に出席したほか、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、富山県を訪問して各種の懇談を行い、行政、産業、文化の視察を行う予定である。また滞在中、国会・政府の要人への表敬も行うこととしている。

1990年8月23日に東京の都道府県会館において開催された第11回日ソ知事会議には、次の日本の知事、副知事およびソ連知事代表団が出席した。

東京都知事	鈴木俊一	新潟県知事	金子清
石川県知事	中西陽一	福井県知事	栗田幸雄
山形県知事	板垣清一郎	京都府知事	荒巻禎一

山口県知事 平井 龍 大阪府知事 岸 昌  
北海道知事 横路 孝弘 長崎県知事 高田 勇  
秋田県知事 佐々木 喜久治 大分県知事 平松 守彦  
福島県知事 佐藤 栄佐久

青森県副知事 谷川 憲三 鳥取県副知事 古居 儔治  
神奈川県副知事 久保 孝雄 岡山県副知事 吉原 孝司  
富山県副知事 宗田 勝博 福岡県副知事 林 照雄  
奈良県副知事 柿本 善也

I. M. チェレパノフ	モスクワ州ソビエト議長
S. N. ブルダーエフ	ブリヤート自治共和国最高会議議長
V. P. シャムシン	ヤクート自治共和国閣僚会議議長
V. A. ボコフ	ノボシビルスク州執行委員会議長
V. S. クズネツォフ	沿海地方執行委員会議長
V. A. マハラゼ	ボルゴグラード州ソビエト議長
Y. A. ノジコフ	イルクーツク州執行委員会議長
L. Y. ラケツキイ	チュメニ州執行委員会議長
A. I. ティシュケビッチ	ミンスク州執行委員会議長
Y. F. ヤーロフ	レニングラード州ソビエト議長

なお、この他 B. L. コロコロフ・ロシア共和国外務次官および I. V. ベロツェルコフスキー・ロシア共和国対外貿易公団総裁が同席した。

なお、来賓としてソビエト側から Yu. D. クズネツォフ・在日ソビエト連邦臨時代理大使閣下が、また日本側から奥田自治大臣が会議に出席されそれぞれ祝辞を述べられた。また、B. L. コロコロフ・ロシア共和国外務次官から I. S. シラーエフ・ロシア共和国閣僚会議議長のメッセージが、兵藤外務省欧亜局長から中山外務大臣の祝辞がそれぞれ伝達された。

会議では、「日ソ友好親善の発展について」と「日ソ貿易・経済の協力について」の問題が討議された。討議は、率直な意見交換および相互理解の雰

囲気のうちに行われ、今後一層日ソ友好親善と日ソの貿易・経済を発展させることについて共通の関心が表明された。

日ソ両国知事団は、日ソ関係の発展のためには、国のレベルでの真の相互信頼と理解に基づく善意と友好関係の確立が不可欠であるという点で同じ認識に達した。

この意味において、M. S. ゴルバチョフ・ソ連邦大統領が訪日され、海部俊樹総理大臣と会談されることを歓迎するものである。

また、日ソ両国知事団は、双方の地方行政レベル、地域レベルおよびソビエト連邦各共和国との友好関係の発展が真の相互信頼に基づく両国間の良好な友好関係の樹立促進に良い影響を与え、このことが更に貿易・経済の協力関係を進める上でも必要であると同時に、両国間のさまざまな問題について建設的な対話を進めるため有益であるとの意見の一致を見た。

この目的を実現させるためにも、地方行政レベルにおける多様な形の交流を拡大し、さらに青少年をはじめとする地域住民間の交流、科学・文化・スポーツの交流の展開、観光の振興、姉妹友好関係の提携の促進、地域情報の積極的な交換をすることについて合意した。

日ソ両国知事団は、両国地方行政の首長の対話が両国間の友好親善と善隣関係のために有意義であることを評価し、これの継続を願って、来る 1992 年にモスクワで第 12 回日ソ知事会議を開催することの合意に達した。

1990 年 8 月 23 日 東京

全 国 知 事 会 会 長  
東 京 都 知 事  
鈴 木 俊 一

ソ 連 知 事 代 表 団 団 長  
モ ス ク ワ 州 ソ ビ エ ト 議 長  
I. M. チェレパノフ

共 同 声 明 (露 文)

「ロシア語」

「ロシア語」

「ロシア語」

「ロシア語」

## 9 閉会挨拶

### (1) ソ連知事団団長

#### モスクワ州ソビエト議長 I. M. チェレパノフ

皆さんありがとうございます。最後にご挨拶させて頂けることを感謝いたします。

共同コミュニケの草案をただ今拝聴いたしました。討論の精神と内容を十分に反映していると思いました。

私どもは一つの重要なことについて意見が一致しております。それは、今後私どもの地域間の関係をさらに強化するということであり、それは、今後の両国間の関係発展を国のレベルで推し進めるための大変良い基礎となりますし、両国民間の友情を強めて行くためにも良い基礎となることでありましょう。そして、地方行政を通じて、広く各方面で一般住民の間に関係がつながるわけであり、それが私どもの両国民の友情の本質であります。

そしてまた、私どもは、私どもの関係を、今までのやり方でもより完全なものにもっていくことが必要だ、ということで意見が一致いたしました。つまり、文化、青年、スポーツの交流であります。それからスペシャリスト同士のコンタクトも強めていかなければなりません。

もちろん皆様方も私と同じご意見だと思いますが、私どもの討論の主なラインは、私どもの経済関係をもっと広げて行こう、という気持であります。これが主な意見の一致を見たところであります。

それから、さらに申し上げたいことは、この会議で、とくに、日本側の私どものパートナーであられる皆様が、21世紀に目を向けていらっしゃることを強く感じました。次の21世紀は、単に新しい技術発展の時代であるだけでなく、地上の新しい文明の時代でなくてはなりません。それは、人間の関係の、質的に新しい時代でもあります。そして、21世紀に対してバトンタッチをするという使命を私どもは持っておりますが、もちろん、それは、皆様の注意を引き、皆様の賛同を得ることと思っております。



それと同時に、大変重要なことは、私どもが第 12 回会議を 2 年後にモスクワで行うことを決めることでもあります。第 11 回会議に出席なさった皆様は、全員、積極的に、この第 11 回会議と第 12 回会議との間の期間が新しい内容に満たされて、地域間のコンタクトが一層強まるようにご尽力頂き、また、両国民間、両国家間の友好を推進されるよう期待いたしております。

そしてまた、日本の知事会の皆さんに対し、本日の第 11 回会議を立派に準備して下さい、我々の会議がとどこおりなく、非常に順調に行われたこととお礼申し上げます。

## **(2) 全国知事会会長・東京都知事**

### **鈴木 俊 一**

それでは私から一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、長時間に亘り熱心なご討議をいただき、議事進行にご協力賜わり、お蔭様で無事会議を終了することができました。

両国は、政治体制、社会制度は異なりましても、我々地方行政に携わる者の究極の目標は、住民の幸せと地域の発展であります。

今日のソ連の変貌は目を見張るものがございます。私ども、一昨年丁度今頃、モスクワでの第 10 回日ソ知事会議に参加いたしました。その時には予想できなかった程の早いテンポで、「ペレストロイカ」が推進され、中央・地方を通じ、政治、行政、経済などの各分野で大改革が進められているように拝見しております。

この大きな歴史の流れの中で、皆様は新しい時代の担い手、責任者として、地域住民の福祉の増進、地域経済発展に更に大きな権限と責任を担うお立場になったと伺っております。やり甲斐のあるお立場につかれ、選挙民との関係その他において多くの抱負をお持ちと信じます。反面、皆様のお話を伺っておりまして、経済問題など、今後とくに推進すべき当面の課題を抱えておられるように拝察いたしましたのであります。

私ども日本の知事が貿易経済問題に持つ権限は、お国と比較して可成り

異なるものがあります。しかしながら、よき友人として、今後、経済問題については積極的に橋渡しの役目を果たせればと考えている次第であります。

また、午前中の友好親善に関する話合いは実り多いものでありました。このような対話、これからお出かけになる地方視察は、相互理解を深めるよい機会になるものと信じております。この会議の継続により、両国地域間の交流が更に今後活発となることを念じて已みません。

その意味で、チェレパノフ議長からお申し出のあった 1992 年のご招待は大変意義深いことであり、喜んでお受け申し上げる次第であります。最後に、私からも、「北方領土問題」の解決について皆様のご理解とご支援をお願い申し上げまして、閉会のご挨拶といたします。

我々の意味疎通を手伝って下さいました通訳の皆さん、ご協力有難うございました。ご苦労様でした。

## 10 閉 会

砂子田事務総長より、これを以て第 11 回日ソ知事会議を終了する旨発言、長時間の会議参加について謝意を表明した。

## 11 共同声明調印

第 11 回日ソ知事会議終了に引き続き、同場所において、鈴木全国知事会会長とチェレパノフ団長による共同声明の調印が行われ、両代表が握手した。

出席者一同拍手を以てこれをたたえた。

なお、チェレパノフ団長から、第 11 回日ソ知事会議の終了にあたって、ロシア共和国閣僚会議からの、そしてソ連知事団からの記念品が鈴木会長に贈呈された（拍手）。また、鈴木会長からソ連知事団の各メンバーに記念品（世界時計）が贈呈された（拍手）。

（16 時 04 分終了）

〔付〕

記者会見の概要

〔日 時〕 平成 2 年 8 月 23 日（木） 16：30～17：08  
〔場 所〕 都道府県会館別館 311 号室  
〔出席者〕 ソ連側：会議出席団員全員  
日本側：鈴木会長（東京）、岸知事（大阪）、金子知事（新潟）  
砂子田事務総長  
記者側：共同、時事、朝日その他各社約 15 名  
（外人記者を含む）

〔会見の概要〕

⑩ 時事通信

ペレストロイカの進展など新しい状況の下に開催された今回の日ソ知事会議の意義について、両国の団長からそれぞれお聞きしたい。

⑪ 鈴木会長

今回の会議のテーマあるいは特色は、日ソ両国間の友好親善ならびに貿易・経済協力ということであり、前回と同じであった。しかし今回は、双方とも、より具体的に、行っていることについて報告し合った。それぞれの地域で実施している交流の具体的な施策の紹介は、お互いに大きな刺激になった。

⑫ チェレパノフ団長

只今鈴木知事の述べられた総括に同意する。共同声明の中にも盛り込まれているように、地域レベルでの多様な交流を重ねることによって、両国間の友好的な関係を深めて行こう、ということで意見が一致している。1992年にモスクワで第12回日ソ知事会議を行うことになったが、我々の事業は、地域レベルの交流のシステム化した行事ということであり、単に回を重ねるだけの会議ではない。経済、政治におけるペレストロイカが日本側から高い評価を受けていることを知り、有り難く思っている。ソ連は現在、地球全体での

さまざまな出来事に対し、肯定的にアプローチをしているということを、とくに強調いたしたい。

日本はいま、世界の国際関係の中で非常に重要な国となっており、とりわけ太平洋地域において重要な地位を占めている。日本はソ連の隣国であり、また国際的な影響力も大きいので、あらゆる面で両国間の交流を進めることは大きな意義があると思う。

会議では、両国知事が、この会合を契機に友好と相互理解がいちだんと進むことに満足を表明したが、同時に、隣接する両国間の交流の水準が、日ソ両国の国力からみてなお不十分である現況を認識した。

我々は、日本国民がソ連国民に対して払っている敬意、配慮に感謝している。ゴルバチョフ大統領の訪日に対しても好意が寄せられていることを嬉しく思う。この会議が、大統領訪日の成功のため何らかの貢献をすることを期待している。

⑩ 北海道新聞

北方領土に対するお考えを聞きたい。

⑪ チェレパノフ団長

第10回、第11回の日ソ知事会議で、この問題に日本側の知事さん方が触れられた。この問題については、十分理解した上でアプローチする必要があるが、このような問題はアジアでもヨーロッパでも起こっていることであり、第二次大戦の結果として出来上がっている現実である。この問題は少数のグループだけの関心事ではなく、慎重な取扱いをしなければならない。こういう問題は、ゴルバチョフ大統領の訪日の際にも議題として取り上げられると思うが、政府レベルで慎重に処置すべき事柄である。私は、この問題が日ソ間の経済交流の発展にとって障害になっているという考え方には同意できない。こういう問題にあくまでも固執するならば、両国間の関係が間違った方向に向かう恐れがある。

⑫ 共同通信

北方領土問題は、政府レベルの問題だとおっしゃったが、従来の日ソ知事

会議と比べて今回の会議で何か変化があったか。

⑩ チェレパノフ団長

この問題に関しては、先程のような話につきるが、代表団のメンバーで誰か意見があるか。ないようなので、この問題についての質問はこれで終りにしたい。

⑪ 毎日新聞

北方領土問題を共同声明の中に盛り込もうという考えはなかったか。

⑫ 鈴木会長

本日の会議で、日本側知事が何人もこの問題に触れた。日ソ関係の進展のためには国レベルでの真の友好関係が確立されることが不可欠である、という意味で発言をした。声明文の中に具体的には書いていないが、「ゴルバチョフ大統領が訪日され、海部総理と会談されることを歓迎する」と述べた部分は、領土問題の解決について両首脳の間で期待している、という意味だ。また「地域レベルの友好関係の発展が両国間のさまざまな問題について建設的な対話を進めるために有益である」と声明でうたっているが、北方領土問題はこの「さまざまな問題」の中に含まれているとご理解願いたい。日本側の期待している気持ちは十分に入っていると思う。このことを承知の上でソ連側もサインをされたと思う。

⑬ 日刊工業新聞

ナホトカの経済特区はどう進展しているか。また、合弁事業の進み具合についてお聞きしたい。

⑭ クズネツォフ・沿海地方議長

いまナホトカで州議会が開かれていて、そこで経済特区の問題を含め包括的な討議が行われている。経済特区は過去2年間進めてきている。いま20件の大きなプロジェクトが進行中であり、日本の三菱総研やソ連東欧貿易会が参画している。この9月には計画が地方議会で採択され、ついで共和国議会に上提されることになっている。



〔付 録〕

- 1 来日ソ連知事団名簿
- 2 ソ連行政区画図
- 3 ソ連知事団滞在日程

(付．地方視察同行者)





## 1. 来日ソ連知事団名簿

- 1 モスクワ州ソビエト議長（団長）  
I. M. チェレパノフ  
（1939. 5. 30 生れ、51 歳）
- 2 ロシア共和国外務次官  
B. L. コロコロフ  
（1924. 11. 9 生れ、65 歳）
- 3 ブリヤート自治共和国最高会議議長  
S. N. ブルダーエフ  
（1934. 5. 21 生れ、56 歳）
- 4 ヤクート自治共和国閣僚会議議長  
V. P. シャムシン  
（1937. 5. 15 生れ、53 歳）
- 5 ノボシビルスク州執行委員会議長  
V. A. ボコフ  
（1927. 7. 20 生れ、63 歳）
- 6 沿海地方執行委員会議長  
V. S. クズネツォフ  
（1954. 1. 6 生れ、36 歳）
- 7 ボルゴグラード州ソビエト議長  
V. A. マハラゼ  
（1940. 3. 5 生れ、50 歳）
- 8 イルクーツク州執行委員会議長  
Y. A. ノジコフ  
（1934. 2. 17 生れ、56 歳）

- 9 チュメニ州執行委員会議長  
L. Y. ラケツキー  
(1942. 3. 15 生れ、48 歳)
- 10 ミンスク州執行委員会議長 (白ロシア共和国)  
A. I. ティシュケビッチ  
(1938. 3. 14 生れ、52 歳)
- 11 レニングラード州ソビエト議長  
Y. F. ヤーロフ  
(1942. 4. 2 生れ、48 歳)
- 12 ロシア共和国外務省上級参事官  
M. V. イワノフ  
(1951. 8. 29 生れ、38 歳)
- 13 ロシア共和国対外貿易公団 (ロスブネシュトルグ) 総裁  
I. V. ベロツェルコフスキー  
(1931. 10. 10 生れ、58 歳)
- 14 ロシア共和国外務省儀典長  
A. A. マカロフ  
(1951. 10. 31 生れ、38 歳)
- 15 通訳  
O. Y. ジリーナ (女性)  
(1956. 4. 1 生れ、34 歳)

Name List of the Soviet Governors' Delegation

- 1 Mr. I. M. Cherepanov (Delegation Leader)  
Chairman of the Moscow Regional Soviet
- 2 Mr. B. L. Kolookolov  
Deputy Minister, Ministry of Foreign Affairs  
Russian Republic (RSFSR)
- 3 Mr. S. N. Buldaev  
Chairman of the Supreme Soviet of the Buryat Autonomous Republic
- 4 Mr. V. P. Shamshin  
Chairman of the Council of Ministers of the Yakut Autonomous  
Republic
- 5 Mr. V. A. Bokov  
Chairman of the Executive Committee of the Novosibirsk Regional  
Soviet
- 6 Mr. V. S. Kuznetsov  
Chairman of the Executive Committee of the Primorskii Territorial  
Soviet
- 7 Mr. V. A. Makharadze  
Chairman of the Volgograd Regional Soviet
- 8 Mr. Y. A. Nozhikov  
Chairman of the Executive Committee of the Irkutsk Regional Soviet
- 9 Mr. L. Y. Raketkii  
Chairman of the Executive Committee of the Tyumen Regional Soviet
- 10 Mr. A. I. Tishkevich  
Chairman of the Executive Committee of the Minsk Regional Soviet  
(Byelorussian Republic)
- 11 Mr. Y. F. Yarov  
Chairman of the Leningrad Regional Soviet
- 12 Mr. M. V. Ivanov  
Senior Counsellor, Ministry of Foreign Affairs, Russian Republic  
(RSFSR)

- 13 Mr. I. V. Belotserkovskii  
Chairman of the Foreign Trade Organization of Russian Republic  
(Rosvneshtorg)
- 14 Mr. A. A. Makarov  
Head of the Protocol Department  
Ministry of Foreign Affairs  
Russian Republic (RSFSR)
- 15 Mrs. O. Y. Zhilina  
Interpreter

2. ソ連行政区画図

写真あり



### 3 ソ連知事団滞在日程

#### (1) 概 要

日数	月 日 (曜)	滞在都府県	摘 要	宿 泊 地
1	平成2年 8月21日 (火)	東 京	8:49 (SU 589) 9:40 (SU 575) にて成田着	ホテルニューオータニ TEL 03-265-1111 (東 京)
2	8月22日 (水)	東 京	午前 東京都中央卸売市場大田市場 衆議院議長公邸、参議院議長 公邸、東京都庁 昼 東京都知事招待 (於東京会館) 午後 通商産業省 晩 ソ連知事団主催レセプション	ホテルニューオータニ (東 京)
3	8月23日 (木)	東 京	午前午後第11回日ソ知事会議 (於 都道府県会館) 晩 全国知事会会長主催 歓迎レセプション (於 ホテルニューオータニ)	ホテルニューオータニ (東 京)
4	8月24日 (金)	東京・神奈川	朝 東京発 (バス) 神奈川県視察	ホテルニューグランド TEL 045-681-1841 (横 浜)
5	8月25日 (土)	神奈川・京都	9:21 新横浜発 (ひかり77) 11:46 京都着 午後 京都府視察	都 ホ テ ル TEL 075-771-7111 (京 都)
6	8月26日 (日)	京都・大阪	午前午後京都府視察 夕刻 京都発 (バス)、大阪府へ	ロイヤルホテル TEL 06-448-1121 (大 阪)
7	8月27日 (月)	大 阪	大阪府視察	ロイヤルホテル (大 阪)
8	8月28日 (火)	大阪・富山	8:55 大阪発 (スーパー雷鳥3号) 12:16 富山着 午後 富山県視察	名鉄トヤマホテル TEL 0764-31-2211 (富 山)
9	8月29日 (水)	富山・東京	午前 富山県視察 15:55 富山発 (全日空888) 17:00 羽田着 晩 外務大臣主催レセプション (於 飯倉公館)	ホテルニューオータニ (東 京)
10	8月30日 (木)	東 京	午前 築地市場 昼 自治大臣招待 (於 ホテルニューオータニ)	ホテルニューオータニ (東 京)
11	8月31日 (金)	東 京	11:15 (SU 576) 12:00 (SU 580) にて成田発帰国	

(2) 日 別

第 1 日 8 月 21 日 (火)

(東 京 都)

時 刻	行 事
8 : 49	ソ連知事団第 1 陣 (含団長) 到着 (SU589)
9 : 40	同 第 2 陣 到着 (SU575)
10 : 31 ~10 : 45	歓迎挨拶 (空港特別待合室 北 8、9 号室) 主な出迎者：砂子田事務総長、クズネツォフ臨時代理大使等
10 : 54	空港発 (リムジンバス)
12 : 40	ホテルニューオータニ着 玄関にて鈴木全国知事会会長出迎え、挨拶
13 : 30 ~ 14 : 30	昼 食 (ホテル内 新館 40 階「トップ・オブ・ザ・タワー」)
14 : 50	ホテル発 (バス) ソ連大使館訪問 都内見学ののち、ホテルに戻り、小憩
18 : 43 ~ 20 : 30	砂子田事務総長招待夕食 (ガーデンバーベキュー もみじ亭) (小林渉外部長等同席)

ホテルニューオータニ泊



第 2 日 8 月 22 日 (水)

(東 京 都)

時 刻	行 事
6 : 00	ホテル発 (バス)
6 : 33 ～ 7 : 26	東京都中央卸市場大田市場訪問 (説明案内：青山和夫中央卸売市場長、番所宏育大田市場長等)
7 : 58	ホテル着、朝食 (アゼリア)
9 : 20	ホテル発 (バス)
9 : 33 ～ 10 : 22	衆議院議長公邸訪問 櫻内義雄・衆議院議長と会見 (9 : 45～10 : 22) (同席者：桑形昭正渉外部長、クズネツォフ臨時代理大使、砂子田事務総長)
10 : 28 ～ 10 : 59	参議院議長公邸訪問 土屋義彦・参議院議長と会見 (10 : 28～10 : 54) (同席者：大鷹市郎渉外部長、クズネツォフ臨時代理大使、砂子田事務総長)
11 : 13 ～ 11 : 45	東京都庁訪問 鈴木俊一・東京都知事と会見 (2 階庁議室) (11 : 18～11 : 40) (主な同席者：真仁田 勉副知事、国安正昭外務長、小川靖郎国際部長、クズネツォフ臨時代理大使)
11 : 55 ～ 13 : 30	鈴木都知事主催昼食会 (於 東京会館 11 階 ゴールドルーム) (主な出席者：前記会見時の 3 名のほか、牧野洋一企画審議室長、クズネツォフ臨時代理大使、砂子田事務総長)
	バスで都内見学
14 : 50 ～ 15 : 47	通商産業省訪問 畠山 襄・通商政策局長らと意見交換 (17 階国際会議室) (同席者：竹中速雄・ソビエト連邦東欧室調整班長、クルチーニン・在日ソ連通商代表部員ほか) (シャムシン・ヤクート自治共和国議長、ラケツキー・チュメニ州議長ここで合流)
15 : 58 ～ 17 : 30	ホテルにて小憩
18 : 00 ～ 19 : 30	ソ連知事団主催レセプション (於 ソ連大使館) 〔主な出席者〕 東京、新潟、石川、福井、長崎、大分各都県知事 青森 (谷川)、富山 (宗田)、鳥取 (古居) 各副知事、砂子田事務総長、兵藤外務省欧亜局長、東郷ソ連課長、クズネツォフ臨時代理大使、エフドキモフ・通商代表部副首席ほか大使館、通商代表部員
20 : 00	ホテル着  ホテルニューオータニ泊

第 3 日 8 月 23 日 (木)

(東 京 都)

時 刻	行 事
9 : 40	ホテル発 (バス)
10 : 00 ～ 12 : 30	第 11 回日ソ知事会議 (午前の部) (都道府県会館別館 211 号室)
12 : 30 ～ 13 : 30	昼食 (会館別館 2 階 富士レストラン)
13 : 30 ～ 16 : 00	第 11 回日ソ知事会議 (午後の部) (15 : 10 クズネツオフ・沿海地方議長合流) 記念品贈呈 共同声明調印等
16 : 30 ～ 17 : 08	記者会見 (会館内 311 号室)
17 : 20	ホテル着
18 : 35 ～ 20 : 05	鈴木俊一・全国知事会会長主催 歓迎レセプション (立食式) (ホテルニューオータニ本館 1 階「梅の間」) 〔主な出席者〕 東京、北海道、秋田、山形、新潟、石川、京都、山口各都府県知事 青森 (谷川)、富山 (宗田) 各副知事、砂子田事務総長、 櫻内衆院議長、土屋参院議長、紀内自治省総務審議官、 黒沢企画室長、兵藤外務省欧亜局長、東郷ソ連課長、 グズネツオフ・ソ連臨時代理大使、コマロフスキー参事官、 シェフチュクー等書記官、エフドキモフ・ソ連通商代表部副首 席
	ホテルニューオータニ泊

第 4 日 8 月 24 日 (金)

(東京都・神奈川県)

時 刻	行 事
8 : 48	ホテル発 (バス) (橋本伸也神奈川県秘書室長同乗)
9 : 35 ～ 12 : 43	かながわサイエンスパーク訪問 挨拶説明：井上 潔代表取締役副社長 常設展示場、科学技術アカデミー研究室、高度計測センター等見学  ホテル KSP にて昼食 (11 : 40～12 : 35)
13 : 53 ～ 15 : 06	日産自動車 (株) 座間工場訪問 挨拶説明：羽根康行・取締役座間工場長  (車中で県勢の説明)
16 : 15 ～ 17 : 18	神奈川県庁訪問 長洲一二・神奈川県知事と会見 (本庁舎 3 階大会議場) 同席者：三副知事 (宮森進・高瀬孝夫、久保孝雄) ほか幹部職員
17 : 20 ～ 17 : 45	大気汚染監視センター (5 階) 見学 説明：小島幸夫・大気保全課長
17 : 50	神奈川県庁発
17 : 57	ホテルニューグランド着
18 : 25 ～ 20 : 50	長洲・神奈川県知事主催歓迎晩餐会 (ホテルニューグランド・レインボールーム) 主な出席者：三副知事、山口栄蔵出納長、渥美精一総務部長、小林フミ子 県議会副議長、新堀典彦議員 (自民)、石川 滋議員 (社会)、 小塚金治議員 (県政会)、葛西清孝議員 (公明)、佐藤正之 議員 (民社)、井上 潔ケイエスピー副社長
	ホテルニューグランド泊

第 5 日 8 月 25 日 (土)

(神奈川県・京都府)

時 刻	行 事
8 : 18	ホテルニューグランド発 (バス)
8 : 44	新横浜駅着 (橋本秘書室長ら見送り)
9 : 21	同駅発 (ひかり 77 号)
11 : 46	京都駅着 倉林公夫・京都府企画推進局長、アレクセーエフ在大阪総領事ら出迎え
11 : 58	京都駅前発 (バス)
12 : 04	京都グランドホテル着
12 : 13 ～ 13 : 30	昼食 (京都グランドホテル「ル・シーヌ」)
13 : 34	同ホテル発
13 : 52 ～ 15 : 15	京都府公館訪問 荒巻禎一・京都府知事と会見 (13 : 55～14 : 43) (茶の湯の接待) (14 : 45～15 : 10) 接待老 : 森 明子・今日庵外事部長
15 : 30 ～ 15 : 55	京都府京都文化博物館訪問 説明案内 : 東條 壽・副館長
16 : 11 ～ 16 : 44	平安神宮訪問 説明案内 : 万沢正典・権禰宜
16 : 48	都ホテル着、小憩
18 : 35 ～ 20 : 34	荒巻・京都府知事主催歓迎晩餐会 (都ホテル新館 2 階「比叡の間」) 主な出席者 : 草木慶治副知事、谷岡豊次出納長、町井正登・舞鶴市長 太田正男・京都商工会議所常務理事、 渡邊彌蔵・舞鶴商工会議所会頭 アレクセーエフ・在大阪ソ連総領事
	都ホテル泊

第 6 日 8 月 26 日 (日)

(京都府・大阪府)

時 刻	行 事
9 : 02	ホテル発 (バス)
9 : 15 ～10 : 15	清水焼団地訪問 実演・説明：清水焼伝統工芸士・雲楽窯・斉藤武司氏
10 : 58 ～12 : 46	金閣寺参観 案内説明：金閣寺 (鹿苑寺) 事務長・山岡信三氏
12 : 00	京都国際ホテル着
12 : 14 ～13 : 20	昼食 (同ホテル内「アゼリア」)
13 : 33	ホテル発 (バス)
13 : 45 ～14 : 48	西陣織会館訪問 (14 : 00～14 : 15 きものショー) 案内説明：営業部長・物部信國氏
14 : 58 ～16 : 04	二条城参観 案内説明：京都市元離宮二条城事務所次長・竹谷貞夫氏 (ここで戸田雄一郎・府企画政策課長らと別れを告げる)
17 : 30 ～19 : 30	ソ連総領事館 (豊中市) 訪問 (歓迎会) (主な出席者：V. V.アレクセーエフ総領事 L. V.レーワ領事 A. V.ソソツェフ副領事)
20 : 00	ロイヤルホテル (大阪) 着
	ロイヤルホテル泊

第 7 日 8 月 27 日 ( 月 )

( 大阪府 )

時 刻	行 事
10 : 00 ～11 : 30	経済懇談会 ( 於 ロイヤルホテル 2 階「桂の間」) 主な出席者 : 岸昌・大阪府知事、西村壯一・大阪府副知事、森清園生・商工 部長、飯村正造・大阪貿易会名誉会長、川淵秀夫・同会長、佐々 岡義人・同専務理事、堀田輝雄・大阪国際ビジネス振興協会理事 長、伊藤紀忠・同副理事長、種岡善次郎・関西日ソ貿易団体連合 会常任理事、柳瀬正治・同常任理事 アレクセーエフ総領事、レーフ領事
11 : 30 ～13 : 00	大阪府主催午餐会 (ロイヤルホテル 28 階クラウンルーム) 主な出席者 : 西村副知事、森清商工部長、アレクセーエフ総領事、レーフ領事、 飯村名誉会長、川淵会長、佐々岡専務理事、堀田理事長、伊藤副 理事長、種岡常任理事、柳瀬常任理事
13 : 30	ホテル発
14 : 00 ～15 : 00	ダイエー京橋店 (スーパーマーケット) 参観 (2 班にわかれて店内視察) 挨拶 : 薩摩嘉弘・取締役 説明 : 合田正美・京橋店副支配人
15 : 30 ～19 : 30	「国際花と線の博覧会」参観 案内 : 山口義孝・大阪府国際花と緑の博覧会協力局儀典長
19 : 30 ～21 : 00	岸・大阪府知事主催歓迎夕食会 (博覧会場内、迎賓館) 主な出席者 : 岸知事、西村副知事、高田知事公室長、谷川企画調整部長、 足立生活文化部長、森清商工部長、迫間花博協力局長、山口儀典 長、アレクセーエフ総領事、レーフ領事、ソーンツェフ副領事、 浜田政府代表代理、岡田政府苑副苑長
21 : 45	ホテル着

ロイヤルホテル泊

第 8 日 8 月 28 日 (火)

(大阪府・富山県)

時 刻	行 事
8 : 00	ホテル発 (バス)
8 : 20	大阪駅着
8 : 55	大阪駅発 (スーパー雷鳥 3号)
12 : 16	富山駅着 出迎老：畠山重信・企画県民部長ら
12 : 35 ～13 : 55	名鉄トヤマホテル着 昼食 (会場：3階「清風の間」、休憩)
14 : 00 ～15 : 25	富山県庁訪問 中沖 豊・富山県知事と会見 主な同席者：千田 稔副議長、宗田勝博副知事、その他幹部職員、 砂子田全国知事会事務総長
15 : 40 ～16 : 18	<sup>くれは</sup> 呉羽農協梨第 1 選果場訪問 概要説明：成瀬弘生・県農業水産部長 案内：森 吉雄・場長
16 : 30 ～16 : 50	富山市民俗民芸村 説明：水野忠彦・民俗民芸村村長 高井芳雄・陶芸館館長
17 : 00	名鉄トヤマホテル着、休憩
18 : 00 ～19 : 40	中沖富山県知事主催歓迎レセプション (立食式) (名鉄トヤマホテル 4 階「瑞雲の間」) 主な出席者：千田副議長、原谷敬吾・とやま国際センター理事長、 森本芳夫・富山ウラジオストク会会長 砂子田全国知事会事務総長、宗田副知事、森丘金太郎・出納長 横沢隼人・公営企業管理者、中村 公・教育長ほか各部長 正橋正一・富山市長、渡辺一雄・新湊市長、その他経済、商工、 貿易、農業、漁業、木材、中小企業、自治体、青年、婦人、スポ ーツ、労働各関係団体代表
	名鉄トヤマホテル泊

第 9 日 8 月 29 日 (水)

(富山県・東京都)

時 刻	行 事
9:00	ホテル発
9:40 ~10:40	富山県富山新港管理局訪問 挨拶：五十嵐 武・県土木部長 説明・案内：生田敏弘・富山新港管理局長
11:00 ~11:30	富山新港公共埠頭訪問
11:50 ~12:50	昼食 (第 1 イン新湊 2 階「牡丹の間」) 主な同席者：渡辺一雄・新湊市長 (挨拶)
13:00 ~13:30	新湊漁港訪問 説明：尾山栄吉・新湊漁協組合長
14:20 ~15:10	富山県立近代美術館訪問 案内説明：楠 顕秀館長
15:55	富山空港発 (全日空 888 便) 見送り：宗田副知事、畠山・企画県民部長ら
17:00	羽田空港着
17:20	同 発 (バス)
18:00	ホテル着
18:33	同 発 (バス)
19:30 ~20:29	中山太郎・外務大臣主催レセプション (立食式) (飯倉公館) 主な出席者：兵藤長雄・欧亜局長、東郷和彦・ソ連課長、渡辺泰造・外務報道官、小倉和夫・文化交流部長ほか課長クラス多数、鈴木知事会会長 (東京)、板垣副会長 (山形)、平井副会長 (山口)、金子 (新潟)、荒巻 (京都) 各知事、池田 (秋田) 副知事、砂子田事務総長、チジョーフ大使、クズネツォフ公使、コマロフスキー参事官、エフドキモフソ連通商代表部副首席ほか
20:40	ホテル着

ホテルニューオータニ泊



第 10 日 8 月 30 日 (木)

(東京都)

時 刻	行 事
5:24	ホテル発 (タクシー)
5:38 ~7:30	東京都中央卸売市場築地市場訪問 (イワノフ、コロコロフを除く 13 名参加) 挨拶: 青山和夫・中央卸売市場長 案内説明: 大野俊廣・築地市場副場長
7:50	築地 (営団日比谷線) 発
8:07	神谷町着
8:15 ~9:43	ソ連大使館訪問
10:00	ホテル着、休息
12:07 ~13:30	奥田敬和・自治大臣主催昼食会 (於 ホテルニューオータニ タワー5 階「ももの間」) 主な出席者: 浅野行政局長、湯浅税務局長、森官房長、佐野官房総務課長、 大石秘書官、チジョーフ大使、クズネツォフ公使、 コマロフスキー参事官、鈴木知事会会長、砂子田事務総長
15:00 ~19:10	バスにて都内ショッピング (秋葉原電気街)
20:05 ~21:45	砂子田事務総長招待夕食 (ホテル内本館 16 階「大観苑」) 主な同席者: 峯島 (総務)、矢野 (調査第一)、小林 (渉外) 各部長
	ホテルニューオータニ泊

第 11 日 8 月 31 日 (金)

(東京都)

時 刻	行 事
8 : 16	ホテル発 (バス) (クズネツォフ沿海地方知事及びペロツェルコフスキー公団総裁をのぞく 13 名)
9 : 30	成田空港着 (特別待合室〔北 5 号室〕にて歓送会) 10 : 30 主な見送り人 : 砂子田事務総長、クズネツォフ公使
11 : 15	ソ連知事団第 1 陣出発 (10 : 40 人権) (SU580)
12 : 00	同 第 2 陣出発 (11 : 20 人権) (SU576)

(地方視察同行者)

訪問府県	月日(曜) 宿舎	随行者 職氏名
神奈川県	8月24日(金) ～25日(土) 〔宿舎〕 ホテルニューグランド (横浜市)	全国知事会渉外部長 小林宏之 同 副部長 柳田躬嗣 同 副参事 金岡和男 通訳 堀江 豊
京都府	8月25日(土) ～26日(日) 〔宿舎〕 都ホテル (京都市)	全国知事会渉外部長 小林宏之 同 副部長 柳田躬嗣 同 副参事 金岡和男 通訳 堀江 豊 通訳 揚田裕司 添乗員 大竹賢一〔近畿日本ツーリスト(株)〕 虎の門海外旅行支店係長
大阪府	8月26日(日) ～28日(火) 〔宿舎〕 ロイヤルホテル (大阪市)	全国知事会渉外部長 小林宏之 同 副参事 金岡和男 通訳 堀江 豊 通訳 揚田裕司 添乗員 大竹賢一〔近畿日本ツーリスト(株)〕 虎の門海外旅行支店係長
富山県	8月28日(火) ～29日(水) 〔宿舎〕 名鉄トヤマホテル (富山市)	全国知事会事務総長 砂子田隆 同 渉外部長 小林宏之 同 副参事 金岡和男 通訳 堀江 豊 通訳 揚田裕司 添乗員 大竹賢一〔近畿日本ツーリスト(株)〕 虎の門海外旅行支店係長